

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

琉球大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 2 名の臨時定員増を、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき 5 名の臨時定員増を、平成 27 年度に「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、さらに、平成 29 年度を期限とする 2 名の入学定員について、平成 31 年度までの期限を付した再度の入学定員増を実施した。

そして、平成 31 年度を期限とする 12 名の入学定員については、令和 2 年度から 5 年度にかけても同数の入学定員増を実施した。

これを踏まえて、令和 6 年度の入学定員を、今回の定員増を行わなかった場合の 100 名から 112 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても今回の入学定員増を踏まえ、定員増を行わなかった場合の 685 名から 697 名に変更する。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

沖縄県は、沖縄本島 133 万人、宮古島、石垣島に各 5 万人、久米島に 7 千人、その他 10 数島に 380～4,100 人、総人口約 146 万人の島嶼地域である。その島嶼環境における沖縄県の医療にとって、医師の不足や専門医の地域偏在化は深刻な健康・生活問題となっている。

昭和 56 年の琉球大学医学部開設から令和 4 年まで、毎年琉球大学医学部出身者の約 50～60%が沖縄県の医療に係わり、地域医療に貢献する医師の育成という医学部の理念を実践している。しかしながら、本県においても、都市部を除く地域においては、医師の不足や診療科偏在が深刻な問題であり、島嶼環境に即応した医療人の育成と言う点では、未だ不十分である。この問題の解決には、離島・へき地医療者の医学・医療の知識、技術の維持のため、先進的知識・技術の修得を継続して行う生涯教育が必要であり、かつ、医療者の労働・生活環境の改善に対応した施策を行うことが重要である。

県内唯一の医育機関である本学医学部は、離島・へき地での医師の充足を目的に平成 21 年度より、沖縄県の修学資金援助をうけて、地域枠学生の受入を開始し、段階的に増員して現在各学年 17 名の学生を推薦入試で受け入れている。そして、学部教育においては、地域医療の基礎となるオールラウンドの医療知識・技術が身につけられるよう、琉球大学病院各診療科、おきなわクリニカルシミュレーションセンター、沖縄県立病院の特徴を生かしつつ連携下に地域医療実習などを通して、総合診療や専門的技術の重要性を指導している。

このように、医学部の卒前・卒後教育の改革、地域枠の導入を行って、県立病院の充実を図るためのプログラムを構築している。しかしながら、沖縄県における医師の地域偏在・診療科偏在の問題は依然として深刻であるため、本申請において定員増を行ない、地域枠定員を維持する。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

地域医療に関する卒前教育は、医学部医学教育企画室、琉球大学病院地域・国際医療部、および沖縄県地域医療支援センターが連携して資料1のとおり行っている。1年次に行う医学概論B（地域医療）、外来患者付添い実習、プライマリ・ケア演習1にはじまり、2年次の地域医療/プライマリ・ケア、病院・福祉施設体験実習、プライマリ・ケア演習2、3年次の離島地域病院実習（県内離島、北部地域の県立病院・診療所での実習）、4年次の沖縄県福祉保健所施設見学実習、救急車同乗実習、6年次の離島・へき地での臨床実習まで、幅広い学年に渡って地域医療に関する講義・実習を導入している。さらに、問題解決型の講義・実習を学年縦断的に実施している。加えて、地域枠の学生に対しては、学年縦断的に実施する講義・実習への参加を促している。

定員変更後も、現在の教育方針を継続していく予定である。そして、琉球大学病院が中心となって関係医療機関、医師会、市町村、保健所等を含む行政機関、沖縄県地域医療支援センターと医学教育企画室が連携し、地域医療を含む医学教育の改革および地域枠学生の教育を行う予定である。

エ その他

（1）卒後研修での取り組み

①初期臨床研修医に対して

- ・オリエンテーションにおいてBLS講習会を行い、2年次は離島・へき地医療研修（希望制）を実施する。

②後期専門研修医に対して

- ・目指す専門医資格に対応するプログラムや大学院社会人入学を利用できるローテート制度を設定する。
- ・大学院での専門医養成コースと連動させ、医療ニーズに対応した人材養成を実施する。
- ・地域における救急医療の態勢作りを踏まえ、救急医療に特化した救急専門医を養成するだけでなく、すべての医師に対する救急医療を重視し、地域連携とプライマリ救急医療を各診療科で教育する。

③医師の派遣・紹介の仕組み

- ・琉球大学病院に設置されている沖縄県地域医療支援センターを中心として、琉球大学医学部・診療科及び県内の各拠点病院と連携し、離島・へき地における医師の適正配置と個々人のキャリア構築と専門性の特化を一体化させた沖縄県地域枠キャリア形成プログラムを運用する。

④臨床研修指導医養成セミナー

R y u M I Cの指導医を対象とした、臨床研修指導医養成セミナーを毎年開催している。

⑤女性医師定着策

ア) 職場環境の改善・整備

- ・大学内に、院内保育所を設置している。
- ・男性医師の理解を深め、男女協働参画の意識を高めるFDを随時実施している。
- ・職場再復帰のための生涯教育・研修を、琉球大学病院キャリア形成支援センターや

沖縄県地域医療支援センターが支援する。

イ) 「琉球大学医学部女性医療人の会」の設立および女性医師支援事業の開始。

- ・沖縄県医師会の「沖縄県女性医師の会」と連携した「琉球大学医学部女性医療人の会」を設立した。女性医師支援の啓発シンポジウムを開催し、復帰医師支援研修プログラムを開始している。

(2) 入学者選抜段階における取組の推進

沖縄県の特徴である島嶼環境に即応した医療人の育成を図る。これまで琉球大学医学部開設以来、多くの医師を輩出してきたが、沖縄県の離島・へき地医療従事医師の希望者は少なく、引き続き離島・へき地医療への充実を図る予定である。

①地域を指定した入学者選抜（地域枠）

募集人員：14名程度（沖縄県に居住し、離島北部地域を除く沖縄県内の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

地域を指定した入学者選抜（離島・北部枠）

募集人員：3名程度（沖縄県に居住し、沖縄県の離島・北部地域の高等学校を卒業した者）

募集年度：平成27年度～

②入学者選抜方法

推薦入試により、「地域枠」（14名程度）、「離島・北部枠」（3名程度）の2つのカテゴリーに区分し、選抜する。

③地域枠および離島・北部枠学生のアドミッションポリシー

沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人

地域の要請が高い診療科を選択し、診療科偏在の是正に貢献できる人

生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人

自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人

学習意欲の維持並びに自己学習ができる人

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人

地域枠学生においては、琉球大学医学部地域枠学生のアドミッションポリシーを意識・自覚した学生を選抜し、卒前教育において、医学教育企画室ならびに沖縄県地域医療支援センターが中心となり、卒後における自己の地域医療貢献のライフスタイル像を身につけさせ、卒後も、沖縄県地域医療支援センターが中心となり、常に自己啓発・生涯学習しながら医療実践する医師を育成する。

[参考：医学部医学科令和5年度入学定員]

事 項	一般選抜		推薦入学Ⅱ	計	第2年次編入学
	(前期日程)	(後期日程)			
医学部医学科	70人	25人	17人	112人	5人

④地元高等学校に対する取組

- ・ 高校生を対象としたオープンキャンパスを実施し、琉球大学医学部のアドミッションポリシー、医学部カリキュラム、教育・研究・診療環境、地域医療教育を説明し、在校生による医学部生活紹介、受験心得等の説明を行い、また卒業生からは、卒業後の初期臨床、進路、専門医になるための紹介等を行い、進路相談に応じている。
- ・ 県内高等学校長等との懇談会を年1回開催し、意見交換を行い、優秀な学生の入試受験を呼びかけている。
- ・ 県内高校の希望を受け、入試説明会を行っている。

琉球大学医学部医学科における地域医療に関する学部教育カリキュラムの概要(着色は地域枠学生を中心としたプログラム)

学年	形態	科目名	期間	場所	教育内容
1 年 次	講義	医学概論B (地域医療)	1回	琉球大学医学部臨床講義棟大講義室	地域医療の概要を講義し、地域医療に対する関心を刺激する。
	実習	外来患者付添い実習	1日	琉球大学病院	患者としての目線で医療や福祉の現場を見せることにより、将来の学習の動機づけを行う。
	実習	プライマリ・ケア演習1 (地域医療コース)	8日	おきなわクリニカルシミュレーションセンター	地域枠学生を対象に地域医療で経験する頻度の高い症候について、低学年次から実習形式で学び、身につけるべき考え方を身につける。
1 5 6	講義 実習	へき地・離島医療体験 (地域枠学生中心)	3日 ～ 5日	沖縄県立・公立の離島・へき地の病院・診療所	事前学習会にて地域医療に必要な技能・態度に関する講義を行い、現地で実際に体験するとともに、振り返り・事後学習会にてさらに学びを深める。
2 年 次	講義	地域医療／プライマリ・ケア	9回	琉球大学医学部基礎講義実習棟	地域医療・プライマリ・ケアに関する講義を行い、その位置づけとプライマリ・ケア医の役割を認識する。地域医療に対する関心を維持する。
	実習	病院・福祉施設 体験実習	1日	実習協力病院・協力施設	幅広い医療・福祉の現場(療養型施設及び国立ハンセン病療養所)を見学し、社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解する。
	実習	プライマリ・ケア演習2 (地域医療コース)	8日	おきなわクリニカルシミュレーションセンター(予定)	令和6年度から開始。地域枠学生を対象に地域医療に関する実習を行う。具体的な内容については令和5年度中に決定する。
3 年 次	実習	離島地域病院実習	5日	沖縄県立・公立の離島・へき地の病院	離島・北部地域の病院で実習を行い、疾病と生活環境の関わりを理解し、地域住民の心理・社会的背景を知る。
4 年 次	実習	沖縄県福祉保健所施設見学実習	1日	沖縄県福祉保健所	福祉保健所施設等を見学実習し、疫学と予防医学を含め、環境との関わりを学ぶ。
	実習	救急車同乗実習	1日	那覇市内消防署	救急車に同乗し、救急活動の実際を体験的に知る。
6 年 次	実習	離島・へき地でのクリニカル・クラクシップ (選択)	2～4 週間	離島・へき地の県立病院、診療所	離島・へき地診療所において診療参加型の実習を行い、離島・へき地における地域医療への理解を深め、地域医療に対するモチベーションを高める。

令和6年度
医学部入学定員増員計画

琉大戦略第5号
令和5年8月23日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人琉球大学
学長 西田 睦



「地域の医師確保等の観点からの令和6年度医学部入学定員の増加について（令和5年8月8日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	上原キャンパス事務部学務課長 鈴木 極
	TEL	098-895-1030
	FAX	098-895-1092
	E-mail	igzjimcho@acs.u-ryukyu.ac.jp

大学名	国公立
琉球大学	国立

1. 現在（令和5年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	5	0	697

↑
(収容定員計算用)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
(ア) 入学定員	112	112	112	112	112	112	672
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	117	117	117	117	112	697

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	5	0	625

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	100	625
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和6年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	5	0	637

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	112	100	100	100	100	100	612
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	105	105	105	105	100	637
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **12**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	12
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	12

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 12

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	沖縄県	12
大学所在地以外の都道府県		
計		12

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R4とR5の貸与 者数のうち多い 方の数
沖縄県	12	17	12	17	17
					0
					0
					0
					0
計	12	17	12	17	17

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① **令和4年度に実施した**地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合) その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜Ⅱ	(i) 推薦入試 (指定校推薦を含む)	別枠(先行型)	17	12	高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考する。 ○共通テスト利用教科・科目(5教科7科目) ・国(国) ・地歴(世B, 日B, 地理B) ・公民(現社, 倫・政経) から1 ・数(数Ⅰ・数A) (数Ⅱ・数B) ・理(物理, 化学, 生物から2) ・外(英(リスニングを含む)) ○個別学力検査等 ・小論文 ・面接	次の(1)～(5)に該当する者 (地域枠については、出願要件(2)を除く) (1) 沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和3年4月1日以降に卒業した者及び令和5年3月に卒業見込みの者で学校長から推薦を受けた者 (2) 沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域(石垣市, 宮古島市, 久米島町)ならびに沖縄県本島北部地域(大宜味村, 今帰仁村, 本部町, 名護市, 宜野座村)に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者 (3) 沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が貸与する奨学金の受給を希望する者 (4) 人物, 学力ともに優れ, 健康で, 高等学校等における全体の評定平均値が4.3以上の者 (5) 合格した場合は, 入学することを確約できる者	有	①内科、②小児科、③皮膚科、④精神科、⑤外科、⑥整形外科、⑦産婦人科、⑧眼科、⑨耳鼻咽喉科、⑩泌尿器科、⑪脳神経外科、⑫放射線科、⑬麻酔科、⑭病理、⑮救急科、⑯総合診療	H21以前	
合計			17	12						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和5年度に実施する地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
 また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜Ⅱ	(i) 推薦入試 (指定校推薦を含む)	別枠(先行型)	17	12	高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考する。 ○共通テスト利用教科・科目(5教科7科目) ・国(国) ・地歴(世B, 日B, 地理B) ・公民(現社, 倫・政経) から1 ・数(数I・数A) (数II・数B) ・理(物理, 化学, 生物から2) ・外(英(リスニングを含む)) ○個別学力検査等 ・小論文 ・面接	次の(1)～(5)に該当する者 (地域枠については、出願要件(2)を除く) (1) 沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和4年4月1日以降に卒業した者及び令和6年3月に卒業見込みの者で出身学校長から推薦を受けた者 (2) 沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域(石垣市, 宮古島市, 久米島町)ならびに沖縄県本島北部地域(大宜味村, 今帰仁村, 本部町, 名護市, 宜野座村)に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者 (3) 沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が貸与する奨学金の受給を希望する者 (4) 人物, 学力ともに優れ、健康で、高等学校等における全体の評定平均値が4.3以上の者 (5) 合格した場合は、入学することを確約できる者	有	①内科、②小児科、③皮膚科、④精神科、⑤外科、⑥整形外科、⑦産婦人科、⑧眼科、⑨耳鼻咽喉科、⑩泌尿器科、⑪脳神経外科、⑫放射線科、⑬麻酔科、⑭病理、⑮救急科、⑯総合診療	H21以前	
合計			17	12						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。
 ※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和6年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

令和5年度から医学科内に一般コースと地域医療コースを設置した。地域枠の入学者は地域医療コースに振り分けられ、一年次にプライマリ・ケア演習1として、地域医療で必要とされるプライマリ・ケアについて早期に学修する機会を設けた。令和6年度以降は、地域医療コース学生に必修とするコース科目を年次進行に合わせて導入していく予定である。一般コースと共通する科目として1年次に行う医学概論B（地域医療）、外来患者付添い実習にはじまり、2年次の療養型施設及び国立ハンセン病療養所訪問見学実習、3年次の離島地域病院実習（県内離島、北部地域の県立病院・診療所での実習）、4、5年次の地域医療実習（沖縄本島内の診療所にて在宅医療を含む地域医療臨床実習）、6年次の離島・へき地での参加型臨床実習まで、全学年に渡って、地域医療に関する講義、実習を導入している。

（参考：記入例）

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠による増員を開始し、全学年に渡って地域医療に関する講義・実習を導入するとともに、地域枠の学生に対しては他県の離島・へき地を訪問する機会を設けてきた。令和5年度までに216の地域枠学生を確保し、そのうち108名が現在医師国家試験に合格して地域医療に貢献している。

（参考：記入例）

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■ ■などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 （※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1	医学概論B	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
1	外来患者付添い実習	全員	必修	必修	実習	1	H23
1	プライマリ・ケア演習1	地域枠学生	必修	選択なし	実習	2	R5
2	地域医療/プライマリ・ケア	全員	必修	必修	講義	9時間	H21以前
2	体験実習(療養型施設及び国立ハンセン病療養所訪問見学実習)	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3	離島地域病院実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
4	衛生学・公衆衛生学	全員	必修	必修	講義	58時間	H21以前
4	救急車同乗実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
4, 5	地域医療実習	全員	必修	必修	実習	5日	H21以前
6	臨床実習(離島・へき地でのクリニック・クラークシップ)	全員	必修	選択	実習	2～12週間	H21以前

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1	地域医療実習	地域枠学生	なし	4日	地域医療に取り組む県外病院を見学し、他県の取り組みを学習する。	H22
2～5	地域医療を学ぶためのPBLチュートリアル	全員	なし	8回程度	小グループ内での討論を通して、地域医療に関する課題を自ら見出し、自己主導型学習を身につける。	H22
1～6	離島医療体験事業	全員	あり	3日間	離島・へき地の医療を支える診療所及び中核病院にて実習を行うことにより地域医療に対する認識を深めさせる。	R1
5～6	離島医療体験事業（強化型）	全員	あり	5日間	student doctorが離島・へき地の診療所及び中核病院にて参加型臨床実習を行うことにより将来地域医療に従事する医師としての役割と責任を自覚させる。	R1

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和4年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無（※1）			
沖縄県	3	新入生	100,000	10,380,000	大学を卒業し、医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項で規定する病院のうちから規則で定める病院において同項に規定する臨床研修（以下「初期臨床研修」という。）を修了し、引き続き医師の専門性に関する研修（以下「専門研修」という。）を規則で定める期間修了した後、直ちに指定医療機関の医師として勤務した場合において、その引き続き勤務期間が当該資金の貸与を受けた期間に相当する期間の範囲内で規則で定める期間に達したとき。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	臨床検査、形成外科及びリハビリテーション科については、地域枠プログラムにおいて、県内の基幹施設の状況や指定医療機関勤務との兼ね合いから専門研修の診療科として選択できないこととしている。	学費：年間530,000
沖縄県	14	新入生	50,000	6,780,000	同上	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	同上	学費：年間530,000

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したもの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

--

大学別医学部入学定員一覧

大学名	属性 (国公私)	R5年度定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和4 年度の入学定員	R6年度 増員数	R6年度 定員 (計画)
琉球大学	国立	112	100	12	112

大学名	令和5年度 定員	本増員計画による入 学定員増を行わない 場合の令和6年度 の入学定員	令和6年度増員計画			令和6年度 定員 (計画)	令和6年度増員計画
			増員数	都道府県ごとの内訳			教育内容の概要
琉球大学	112	100		地域枠	12	沖縄県	12
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			0			0	
			研究医枠	0		0	

令和5年度
(2023年度)

学 生 募 集 要 項

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）

インターネットによる出願受付のみ

人 文 社 会 学 部	国際法政学科 人間社会学科	
	琉球アジア文化学科	
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース
	学校教育教員養成課程	特別支援教育コース
理 学 部	物質地球科学科 海洋自然科学科	
医 学 部	医学科 保健学科	
工 学 部	工学科	



令和4年9月
琉球大学

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施方法等に変更が生じた際には、
本学ホームページにて情報を速やかにお知らせします。

3. 募集人員及び推薦人員

学部名	学 科 等			募集人員	推薦人員	
人文社会学部	国 際 法 政 学 科			16名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内	
	人 間 社 会 学 科	哲学・教育学プログラム		5名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内	
		心理学プログラム		8名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき5名以内	
		社会学プログラム		8名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内	
	琉 球 ア ジ ア 文 化 学 科			6名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内	
計			43名			
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	学校教育専攻	10名 ① 沖縄県内地域指定推薦2名 ② 一般推薦8名 ※①の県内地域指定に推薦した高校は、②の一般推薦枠にも別に2名以内推薦可	①1 高等学校等（定時制の課程を含む）につき2名以内 ②1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内	
			教科教育専攻	国語教育専修	2名	1高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				社会科教育専修	2名	1高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				数学教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				理科教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				音楽教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				美術教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				保健体育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				技術教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
				生活科学教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内
	英語教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内			
特別支援教育コース	特別支援教育専攻	特別支援教育専修	2名	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内		
計			32名			
理学部	物質地球科学科	物 理 系		5名	制限なし	
		地 学 系		3名	制限なし	
	海洋自然科学科	化 学 系		10名 うち専門高校卒業生枠 3名程度	制限なし	
		生 物 系		1名 水産に関する学科のみ	制限なし	
	計			19名		

学部名	学 科 等		募集人員	推薦人員
医学部	医 学 科		5名 (注)	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき3名以内
	保 健 学 科		9名 うち専門高校・総合 学科卒業生枠1名	1 高等学校等(定時制及び通信制の課程を含む)につき2名以内
	計		14名	
工学部	工 学 科	機 械 工 学 コ ー ス	11名 うち専門高校卒業生枠2名	制限なし
		エネルギー環境工学コース	7名 うち専門高校卒業生枠2名	
		電気システム工学コース	9名 うち専門高校卒業生枠1名	
		電子情報通信コース	7名 うち専門高校卒業生枠1名	
		社会基盤デザインコース	10名 うち専門高校卒業生枠2名	
		建 築 学 コ ー ス	10名 うち専門高校卒業生枠1名	
		知 能 情 報 コ ー ス	14名 うち専門高校卒業生枠3名	
	計		68名	
合 計			176名	

注：医学部医学科の募集人員については、予告1を参照してください。

実施学部・学科	医学部 医学科
募集人員	【申請が認可されない場合】 5名
	【申請が認められた場合】 地域枠 14名程度（※出願要件（2）除く） 離島・北部枠 3名程度
出願要件	<p>次の（１）～（５）に該当する者</p> <p>（１）沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等(*)を令和3年4月1日以降に卒業した者及び令和5年3月に卒業見込みの者で学校長から推薦を受けた者</p> <p>（２）沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域（石垣市、宮古島市、久米島町）ならびに沖縄県本島北部地域（大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、宜野座村）に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>（３）沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が貸与する奨学金の受給を希望する者</p> <p>（４）人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校等における全体の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>（５）合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>※ 申請が認められた場合、離島・北部枠に該当する高等学校出身者は、地域枠での出願はできません。</p> <p>※ 沖縄県からの奨学金(医師修学資金)の概要 本選抜での入学者全員に対し、沖縄県が学費、生活費など修学に必要な資金を貸し付けます。入学者は、卒業までの6年間奨学金を受給する必要があります。 大学卒業後は、沖縄県地域枠キャリア形成プログラムのもとで原則として琉球大学病院にて臨床研修医として勤務し、その後は沖縄県知事が指定する医療機関に医師として臨床研修を合せて9～13年間勤務していただきます（うち離島・北部の医療機関に4年間）。この場合、奨学金貸与額の全額の返還が免除されます。（参考）沖縄県地域枠キャリア形成プログラム(http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp/uploads/2021/04/6fcfef2e033986bd6ce59acb86b619b9-1.pdf)</p>
選抜方法等	<p>高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考します。</p> <p>○共通テスト利用教科・科目（5教科7科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国（国） ・地歴（世B、日B、地理B） ・公民（現社、倫・政経） ・数（数Ⅰ・数A） （数Ⅱ・数B） ・理（物理、化学、生物から2） ・外（英） <p>} から1</p> <p>○個別学力検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小論文 ・面接

*「高等学校等」とは、高等学校、高等部を置く特別支援学校及び中等教育学校をいう。

※「経済財政運営と改革の基本方針2018」及び「令和5年度の医学部臨時的定員の暫定的な維持について（通知）」による増員申請が認められた場合、申請の結果について、本学ホームページ等で公表します（予告1参照）

5. 実施教科・科目等及び配点

【共通テストの利用教科・科目名】欄

1. 各学部・学科等共通

- (1) 共通テストの「地理歴史」及び「公民」は、この2教科を同一の試験時間において実施しますが、出題教科としては、それぞれ独立した教科です。
- (2) 「地理歴史」・「公民」及び「理科」の試験時間において2科目を受験する場合は、解答順に前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」とします。
- (3) 本学が指定している教科、科目以外を第1解答科目としている場合は、その科目を利用できなくなり、出願できません。
- (4) 「理科」の「基礎を付した科目」とは「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。また、「基礎を付していない科目」とは「物理」、「化学」、「生物」、「地学」を指します。同一名称を付した科目、すなわち物理基礎と物理、化学基礎と化学、生物基礎と生物、地学基礎と地学を選択することは認めません。
- (5) 「英語」は、リーディングとリスニングが一体型となります。

2. 共通テストの利用教科・科目の得点の採用について

本学が指定する共通テストの利用教科・科目数	本学の指定した科目数を超えて受験した場合の取扱い
「地理歴史」・「公民」から1科目を選択する。	「地理歴史」・「公民」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。
「数学」から1科目を選択する。	「数学」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち、高得点の科目を採用します。
「理科」の「基礎を付していない科目」から1科目を選択する。	「理科」の「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。
「理科」の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目を選択する。	①「理科」の「基礎を付した科目」から2科目並びに「基礎を付していない科目」から1科目の計3科目を受験した場合は、「基礎を付した科目(2科目の合計点)」と「基礎を付していない科目」のうち得点の高い方を採用します。 ②「理科」の「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。

3. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

4. 外国語「英語」の配点比率について

- (1) 共通テストにおける外国語（英語）の【リーディング】と【リスニング】の配点比率については、原則として全学部「1：1」とし（教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 社会教育専修のみ「3：1」）、その得点合計を各学部等の定める外国語の配点に換算して利用します。
- (2) 【リスニング】を受験しなかった場合の取扱いについては、【リスニング】は0点扱いとし、【リーディング】の得点のみを利用します。
- (3) 受験上の配慮によって【リスニング】受験を免除された者については【リーディング】の得点を利用して換算します。

【前年度の大学入学共通テストの成績利用について】

本学では、令和5年度入学選抜において、前年度の共通テストの成績は利用しません。

入学者選抜の実施教科・科目等

学部・学科等名		共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等	共通テスト・個別学力検査等の配点等											備考	
		教科	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	推薦書	調査書		志願理由書
医学部	医学科	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から1 現社, 倫・政経 数I・数A 数II・数B 物理, 化学, 生物から2 英 (5教科7科目)	小論文 面接	共通テスト	200	*100		200	200	300						1000
					個別学力検査等						300	200	面接の参考とする			500	
					計	200	*100		200	200	300	200					1500
保健学科	保健学科	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から1 現社, 倫・政経 数I・数A 数II・数B 物理, 化学, 生物から2 英 (5教科7科目)	面接 調査書	共通テスト	150	*50		100	100	150						550
					個別学力検査等						250		面接の参考とする	300	面接の参考とする		550
					計	150	*50		100	100	150	250		300			1100
工学部	工学科	数 理 外	数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 (注) [計2科目] 物理 化基, 生基, 地基から2 [計3科目] 又は 化学, 生物, 地学から1 [計2科目] 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科5科目又は3教科6科目)	面接 推薦書 調査書 志願理由書	共通テスト				200	200	200						600
					個別学力検査等								200		50	100	50
					計				200	200	200	200		50	100	50	1000

(注) 数学の「簿記・会計」「情報関係基礎」で選択解答できる者は、高等学校等でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）の者に限る。
○配点に*印を付してある教科は、選択教科を表す。

17. 入試情報開示に関する事項

(1) 個別学力検査等の採点・評価基準

①人文社会学部

国際法政学科	小論文	○理解力, 考察力, 論理的思考力, 記述力, 完結度等を評価します。 ○誤字, 脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲, 目的意識, 適性, 表現力等を評価します。
	調査書	○総合的な学習を含む学業成績を評価します。
	推薦書	○受験生の人物, 学校生活状況, 学業成績, 課外活動・特技・資格等を評価します。面接の評価に含めます。
	志願理由書	○進学のための目的, 将来の計画及び長所・特技等を評価します。面接の評価に含めます。
人間社会学科	小論文	○理解力, 考察力, 論理的思考力, 記述力, 構成力等を評価します。 ○誤字, 脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲, 目的意識, 適性, 表現力等を評価します。
	調査書	○学業成績を評点化するほか, 特別活動の記録や総合的な学習の時間の内容・評価, 部活動やボランティア活動, 取得資格, 検定等 など, 調査書の他の記載事項も本学部のアドミッション・ポリシーに照らして確認し, 面接の参考資料とします。
	推薦書	○学業, 人物, 課外活動等について, 面接の基礎資料とし, 面接の評価に含めます。
	志願理由書	○目的意識, 意欲, 志望に至った経緯, 記述力等について面接の基礎資料とし, 面接の評価に含めます。
琉球アジア文化学科	小論文	○理解力, 考察力, 論理的思考力, 記述力, 完結度等を評価します。 ○誤字, 脱字及び指定の字数の過不足は減点の対象となります。
	面接	○意欲, 目的意識, 適性, 表現力等を評価します。
	調査書	○「学習成績の状況」を点数化します。
	推薦書	○学業, 課外活動及び特技等を考慮して総合的に評価し, 面接の評価にも含めます。
	志願理由書	○志願理由・動機, 将来計画及び長所・特技・アピール点等を総合的に評価し, 面接の評価に含めます。

②教育学部

学校教育教員養成課程

小学校教育コース	学校教育専攻	面接	○小学校教育に対する意欲・関心をみます。 ○小学校教員としての適性をみます。 ○コミュニケーション能力をみます。
		小論文	○教育や子どもに関する知識・理解をみます。 ○小学校教員として必要な思考力・判断力・表現力をみます。 ○小学校教育に対する意欲・関心をみます。
		調査書	○面接時の参考にします。
		推薦書	○面接時の参考にします。
		志願理由書	○面接時の参考にします。

小学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修	口頭試問を含む面接	○現代文・古文・漢文等の著名かつ基礎的な作品（の一部）を提示し，読解力や思考力をみます。 ○意欲，目的意識，適性，表現力等をみます。
			小論文	○国語教育や言語の問題等に関するまとまった分量の文章を読んだうえで，その内容を正確に把握していることを前提に，しっかりとした根拠に基づいて自らの意見を的確に論述・表現できる能力を求めます。
			調査書	○学習成績や就学状況等を確認できる資料として，面接の重要な資料とします。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として，面接の重要な資料とします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として，面接の重要な資料とします。
		社会科教育専修	面接	○小学校教育に対する意欲・関心・適性をみます。 ○自分の意見をまとめ，適切に表現する力をみます。 ○教育や子どもに関する問題について自分なりの視点で分析し，議論する力をみます。
			小論文	○小学校教育に対する意欲・関心・適性をみます。 ○理解力，分析力，考察力，論理的な思考力および記述力を評価します。
			調査書	○「学習成績の状況」等について面接の参考資料とします。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びについて学校側の認識を示す資料として，面接の重要な資料とします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・自己アピール等を示す資料として，面接の重要な資料とします。
		数学教育専修	口頭試問を含む面接	○小学校教師としての適性，および数学についての理解の程度と論理的思考力について評価します。
			調査書	○学習成績や修学状況等を確認できる資料として，面接時の参考にします。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として，面接時の参考にします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として，面接時の参考にします。
		理科教育専修	口頭試問を含む面接	○意欲，目的意識，適性，表現力等を評価します。 ○自然科学についての理解の程度及び論理的思考力について評価します。
			調査書	○学業成績，就学状況，課外活動，特技等を総合的に評価します。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として，面接時に活用します。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として，面接時に活用します。
		音楽教育専修	実技検査	○正確な音程とリズムで音楽性豊かに演奏できるかをみます。
			口頭試問を含む面接	○大学生生活に対する熱意や目的意識の高さをみます。 ○音楽教育への理解度や学習意欲をみます。 ○面接態度，表現力等をみます。 ○基礎的な理論，楽典，用語，音楽史の知識・理解をみます。

小学校教育コース	教科教育専攻		小論文	○出題の意図を把握し、問題の解決のための分析力や意見、主張に論理性があり説得力があるかをみます。
			調査書	○面接時の参考にします。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
		美術教育専修	面接	○受験の動機、学習意欲、表現力および適正を評価します。
			小論文	○発想力や鑑賞力、造形教育への関心度を評価します。
			調査書	○学習成績や修学状況等を確認できる資料として、面接の重要な資料とします。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。
		保健体育専修	志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
			面接	○小学校の教員としての資質や適性を評価します。 ○運動・スポーツの専門家となるための資質や適性を評価します。 ○専門種目についての理解と競技実績・成績(出願書類の競技歴調査書)を評価します。
			調査書	○「学習成績の状況」および部活動、学級・生徒会活動、特技や表彰・受賞等についてそれぞれ評点化します。
			競技歴調査書	○専門種目についての競技実績や成績を判断するための基礎資料とします(エビデンスを添付すること)。 ○面接の評価に加味します。 高等学校等の長が責任をもって記載した所定の「競技歴調査書」を精査し、面接でも聴取します。なお、競技歴調査書には本人の競技大会・試合への出場や競技成績が客観的に証明できる資料を添付すること(競技歴調査書の記入上の注意事項を必読のこと。)
	技術教育専修	推薦書	○学業・人物・課外活動(部活動に重点を置く)について、面接の基礎資料とします。 ○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。	
		志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。	
		口頭試問を含む面接	○学校教員への意欲をみます。 ○ものづくりに関する基礎的な知識とものづくり体験及び技術的思考力をみます。	
		調査書	○「学習成績の状況」を評点化します。	
	生活科学教育専修	推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。	
		志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。	
		小論文	○小学校教育への関心・意欲及び基礎的な文章力をみます。	
			口頭試問を含む面接	○教師への意欲をみます。 ○家庭総合に関する知識と実践力をみます。
			調査書	○「学習成績の状況」を評点化します。

小学校教育コース	教科教育専攻		推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
		英語教育専修	面接	○志望理由、動機、将来の進路計画、英語学習や英語教育に関する意欲、興味などについて面接を行います。面接は一部英語で行います。
			調査書	○「学習成績の状況」を評点化します。
			推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。
			志願理由書	○志望動機・将来計画・長所・特技・自己アピール等を示す資料として、面接の重要な資料とします。
特別支援教育コース	特別支援教育専攻	面接	○志望理由、特別支援教育に関する学習及び研究意欲、将来の進路計画、社会貢献への意識などについて評価します。	
		調査書	○調査書は独立しては評点化せず、面接の評点に反映します。	
		推薦書	○高校3年間の主体的な活動や能動的な学びが集約された資料として、面接の重要な資料とします。	
		志願理由書	○志望動機・将来設計・長所・特技・自己アピール等を示す資料として面接の重要な資料とします。	

③理学部

物質地球科学科 物理系	面接	○動機、意欲、長所、将来計画、物理学の基礎学力（数学の基礎学力も含む）、適性等を総合的に評価します。その際に、調査書、推薦書、志願理由書の記載内容も含めて評価します。
	調査書 推薦書 志願理由書	○面接の際に活用します。
物質地球科学科 地学系	面接	○志望理由、学習への意欲、適性等を評価し、調査書、推薦書、志願理由書の記載内容も含めて総合的に評価します。
	調査書	○中等教育での学習成果および学習に対する主体性を評価します。
	推薦書	○中等教育での地学分野（天文分野を含む）への取組、活動実績を中心として評価します。
	志願理由書	○志望理由、地学の専門分野に対する学習への意欲、適性等を評価します。
海洋自然科学科 化学系	面接	○自然科学に対する学習意欲、化学に必要な論理的思考力・判断力・表現力、志望動機等を総合的に評価します。
	調査書	○主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度、および指導上参考となる諸事項等を総合的に評価します。
	推薦書 志願理由書	○面接の際に活用します。

海洋自然科学科 生物系	面接	○生物学に対する関心と基礎知識，学習意欲，動機，適性等を総合的に評価します。
	調査書	○生物学に関する活動や資格，指導上参考となる諸事項等特記事項等々を評価します。
	推薦書	○面接の際に活用します。
	志願理由書	○生物学に関する関心の程度や，学習意欲，文章力や論理性などを総合的に評価します。

④医学部

医学科	小論文	○思考力，独創性，発想力，表現力等を総合的に評価します。
	面接	○適性，意欲，表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○面接の参考にします。
	推薦書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。
保健学科	面接	○動機，意欲，適性，表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○学力，リーダーシップ，課外活動，表彰等を総合的に評価します。
	推薦書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。

⑤工学部

工学科 (全コース共通)	面接	○志願理由・動機，将来計画及び長所・特技・自己アピールなどの質疑をとおして，意欲や個性などを評価し，点数化します。
	志願理由書	○志望動機，将来計画，長所・特技，自己アピール等を総合的に評価し，点数化します。
	調査書	○評定平均値を点数化します。
	推薦書	○学業，人物，課外活動等を評価し，点数化します。

(2) 合否判定基準

①全学部の基本的な基準

○共通テストの成績と個別学力検査等の成績等，「学生募集要項」に記載された配点に基づく総合得点により，上位から順次合格者とします。（ただし，人文社会学部の人間社会学科，教育学部の学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻，小学校教育コース教科教育専攻（国語教育専修・社会科教育専修・数学教育専修・音楽教育専修・保健体育専修・英語教育専修）を除く）
○共通テスト及び個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査，小論文，面接等を含む）でも欠席又は0点の者については，不合格とします。

②学部ごとの基準

1) 人文社会学部

国際法政学科	○共通テストの成績，小論文，面接及び出願書類を総合的に判定します。
人間社会学科	○共通テストの成績，小論文，面接及び出願書類を総合的に判定します。 ○共通テストの合計点が50%に満たない場合は不合格とします。
琉球アジア文化学科	○共通テストの成績，小論文，面接及び出願書類を総合的に判定します。

2) 教育学部（学校教育教員養成課程）

学部 共通		○共通テストの成績，個別学力試験等の成績，調査書，推薦書及び志願理由書を総合して選考します。	
小学校教育コース	学校教育専攻	○小論文と面接の成績を中心に，出願書類を総合して判定します。共通テストは資格審査として用いるので，配点には影響しません。	
	教科教育専攻	国語教育専修	○小論文と面接（口頭試問を含む）の成績を中心に，出願書類を総合して判定します。共通テストは資格審査として用いるので，配点には影響しません。
		社会科教育専修	○小論文と面接の成績を中心に，出願書類を総合して判定します。共通テストは資格審査として用いるので，配点には影響しません。
		数学教育専修	○共通テストと面接（口頭試問を含む）の総合評価により判定します。 ○共通テストの成績が配点合計の60%に満たない場合は不合格とします。
		理科教育専修	○共通テスト，面接（口頭試問を含む）及び出願書類の総合評価により判定します。
		音楽教育専修	○共通テスト，実技検査，小論文，面接（口頭試問を含む）及び出願書類を総合的に判断します。 ○共通テストの成績が配点合計の50%に満たない場合は不合格とします。
		美術教育専修	○共通テスト，小論文，面接の総合評価により判定します。
小学校教育コース	教科教育専攻	保健体育専修	○共通テストの合計点に1/2を乗じた値を共通テストの得点とします。 ○面接を中心に共通テスト，調査書，推薦書，志願理由書及び競技歴調査書を総合して選考します。 ○共通テストの成績が配点合計の45%に満たない場合は不合格とします。
		技術教育専修	○共通テストと面接（口頭試問を含む）及び出願書類を総合評価により判定します。
		生活科学教育専修	○共通テスト，小論文，面接（口頭試問を含む）の成績を中心に，出願書類を総合して判定します。
		英語教育専修	○共通テスト，面接（口頭試問を含む，一部英語で行う）及び出願書類を総合的に判定します。
教育特別コース支援	教 育 特 別 専 攻 支 援	特別支援教育専修	○共通テストと面接及び調査書の総合評価により判定します。

3) 理学部

物質地球科学科 物理系	○共通テスト及び面接の総合点により判定します。
物質地球科学科 地学系	○共通テスト及び面接の総合点により判定します。
海洋自然科学科 化学系	○共通テスト，面接及び調査書の総合点により判定します。
海洋自然科学科 生物系	○共通テスト，面接，調査書，推薦書及び志願理由書を総合して選考します。

4) 医学部

医 学 科	○合格ラインに同点者がいる場合には、次の順序に従って順位を付して合格者とします。 ①面接の高得点者 ②小論文の高得点者 ③共通テストの外国語の高得点者 ④共通テストの数学の高得点者 ⑤共通テストの理科の高得点者
保 健 学 科	○共通テスト 550 点，調査書 300 点，面接 250 点の配点とし，総合点 1100 点満点 で上位者から合格者とします。

5) 工学部（工学科全コース共通）

工学科 (全コース共通)	○共通テスト，調査書，推薦書，志願理由書，面接を点数化し，総合得点で順位付けを行い，合否を判定します。
-----------------	-----------------------------------------------------

(3) 試験成績開示

令和 5 年度学校推薦型選抜Ⅱの個人成績を，インターネット出願システムで試験成績開示を希望した方に開示します。申請方法，開示内容及び開示方法は以下のとおりです。出願期間後に開示請求登録を行うことはできませんので，ご注意ください。

①開示内容

当該年度のみ開示します。

②申請方法

インターネット出願システムに，個人情報登録画面の「入試成績の開示請求」欄で「希望する」を選択してください。

③開示期間

令和 5 年 5 月 1 日（月）10：00 ～5 月 31 日（水）17：00

④開示手数料

500 円

入学検定料の支払い時に併せてお支払いください。

⑤本学ホームページ（入試情報—個人成績開示システム）より開示します。

※氏名・受験番号・インターネット出願時のセキュリティコードを入力のうえ閲覧できます。成績開示までの間，紛失しないようご注意ください。

令和6（2024）年度

入学者選抜要項



令和5年6月

琉球大学

※実施方法等に変更が生じた場合には大学ホームページにて速やかにお知らせ
します。

令和6年度琉球大学医学部医学科入学定員について

国立大学法人 琉球大学

医学部医学科は、地域の医師確保等の観点から、政府の基本方針に基づき、下記のとおり暫定的に入学定員を合計12名増員しました。

- 平成21年度から平成31年度まで「緊急医師確保対策」に基づき2名
- 平成22年度から平成31年度まで「経済財政改革の基本方針2009」に基づき5名
- 平成27年度から平成31年度まで「新成長戦略」に基づき5名
- 上記は時限措置であり、令和2年度・3年度の定員については12名が減員される予定であったが、「経済財政運営と改革の基本方針2018」により臨時定員12名が増員
- 令和4年度については、「経済財政運営と改革の基本方針2018」及び「令和4年度の医学部臨時的定員の暫定的な継続について（通知）」により、臨時定員12名が増員
- 令和5年度については、「経済財政運営と改革の基本方針2018」及び「令和5年度の医学部臨時的定員の暫定的な継続について（通知）」により、臨時定員12名が増員

令和6年度については、「経済財政運営と改革の基本方針2018」及び「令和6年度の医学部臨時的定員の暫定的な維持について（通知）」により、医学部医学科の入学定員12名（現状維持）の増員を申請します。

本申請が文部科学省で認可された場合（9月以降予定）、公式ホームページ等で公表します。

（参考：令和4年度・5年度入学者選抜の実績）

学部・学科	募集人員
医学部 医学科	学校推薦型選抜Ⅱ ・地域枠14名 ・離島北部枠3名
	前期日程 70名
	後期日程 25名

【2】募集人員

令和6年4月1日から、人文社会学部人間社会学科哲学・教育学プログラムは「哲学プログラム」へ、理学部物質地球科学科地学系は「地球環境系」へ名称変更します。

学部	学科・課程・(選抜方式)等		入学定員 (名)	募集人員(名)											
				一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜		社会人	帰国 生徒	私費 外国人			
				分離分割方式		共通テスト を課さない	共通テスト を課す	共通テスト を課さない	共通テスト を課す						
				前期日程	後期日程										
人文社会学部	国際法政学科		80	50	14				16		若干名	若干名			
	人間社会学科	哲学プログラム	80	41	18				5		若干名	若干名			
		心理学プログラム							8						
		社会学プログラム							8						
	琉球アジア文化学科		40	25	9				6		若干名	若干名			
計		200	116	41				43							
国際地域創造学部	昼間主 コース	国際地域創造学科	(国際的思考系)	265	90	20			50		若干名	若干名			
			(論理的思考系)												
			(数学的思考系)										30		
	夜間主 コース	国際地域創造学科	(国際的思考系)	80	24	8			13	10					
			(論理的思考系)												
計		345	224	48				63	10						
教育学部	学校教育専攻	小学校教育コース	学校教育専攻	140	25										
			国語教育専修										35	5	10
			社会科教育専修												2
			数学教育専修												2
			理科教育専修												2
			音楽教育専修												2
			美術教育専修												2
			保健体育専修												2
			技術教育専修												2
			生活科学教育専修												2
	英語教育専修			2											
	中学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修	4											
			社会科教育専修	3											
			数学教育専修	5											
			理科教育専修	5											
			音楽教育専修	3											
			美術教育専修	3								若干名			
			保健体育専修	3											
			技術教育専修	2						1					
			生活科学教育専修	3											
英語教育専修			2						1 英語重視						
特別支援教育コース	特別支援教育専攻	特別支援教育専修	8						2						
計		140	101	5				2	32						
理学部	数理科学科		40	30	10							若干名			
	物質地球科学科	物理系	65	28	7				5		若干名	若干名			
		地球環境系		19	3			3		若干名	若干名				
	海洋自然科学科	化学系	95	27	10				10		若干名	若干名			
		生物系		37	10			1		若干名	若干名				
計		200	141	40				19							

学部	学科・課程・(選抜方式)等	入学定員 (名)	募集人員(名)								
			一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜		社会人	帰国 生徒	私費 外国人
			分離分割方式		共通テスト を課さない	共通テスト を課す	共通テスト を課さない	共通テスト を課す			
			前期日程	後期日程							
医学部	医 学 科	100	70	25				5			
	保 健 学 科	60	41	10				9	若干名	若干名	
	計	160	111	35				14			
工学部	工学科	350	206	40	機械工学コース	6			11	若干名	若干名
					エネルギー環境工学コース	10			7	若干名	若干名
					電気システム工学コース	2			9	若干名	若干名
					電子情報通信コース	4			7	若干名	若干名
					社会基盤デザインコース	5			10	若干名	若干名
					建築学コース	2			10	若干名	若干名
					知能情報コース	7			14	若干名	若干名
	計	350	206	40	36			68			
農学部	亜熱帯地域農学科	35	22	5		3	5		若干名	若干名	
	亜熱帯農林環境科学科	35	22	5		3	5		若干名	若干名	
	地域農業工学科	25	16	2		2	5		若干名	若干名	
	亜熱帯生物資源科学科	45	23	4		2	6		若干名	若干名	
			健康栄養科学コース	8			2				
計	140	91	16		12	21					
合計	1,535	990	220	41	12	86	176	10			

○医学部医学科の学校推薦型選抜（共通テストを課す）の募集人員の取扱いについては、3ページを参照してください。

【3】出願資格

本学に入学を志願できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ令和6年度共通テストで本学の各学部・学科等が指定する教科・科目を受験した者です。1つでも受験していない教科・科目があると、受験資格はありません。

共通テストの利用教科・科目の得点の採用については20ページを、特別選抜（総合型、学校推薦型・社会人・帰国生徒）についてはそれぞれの学部のページを、私費外国人留学生特別選抜については134～136ページを必ず確認してください。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は令和6年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は令和6年3月までに修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者（詳細については、大学入試センターから9月頃発刊される「令和6年度大学入学者選抜大学入学共通テスト受験案内」の出願の項を参照してください。）
- (4) 本学において、入学資格審査を申請し、入学資格認定書の交付を受けた者

○上記（4）の入学資格審査を希望する者は、琉球大学入学資格審査申請要項を確認の上、令和5年8月31日（木）までにあらかじめ本学入試課へ相談してください。（総合型選抜は7月31日（月）までに入試課へ相談してください）

入学資格審査申請要項及び入学資格認定交付申請書：

<https://www.u-ryukyuu.ac.jp/admissions/infomation/nyugakushikakushinsa/>

【入学資格審査申請関係書類の提出期限：令和5年9月8日（金）】（総合型選抜は8月4日（金））

【4】入学者選抜の概要

(1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

共通テストの成績、個別学力検査等の成績及び調査書の内容を総合判定して、入学者を選抜します（それぞれの学部の「1. 一般選抜（前期日程・後期日程）令和6年度入学者選抜の実施教科・科目等」を参照）。

(2) 特別選抜

① 総合型選抜

ア 総合型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）

学 部 名	学 科 等 名
教 育 学 部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 学校教育専攻
工 学 部	工学科（機械工学コース、エネルギー環境工学コース、電気システム工学コース、電子情報通信コース、社会基盤デザインコース、建築学コース、知能情報コース）

イ 総合型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

学 部 名	学 科 等 名
農 学 部	亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科、亜熱帯生物資源科学科（健康栄養科学コースを含む）

上記ア・イともに、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合判定して入学者を選抜します（実施学部のページを参照）。

② 学校推薦型選抜

※国公立大学の学校推薦型選抜は、共通テストを課すもの及び課さないものを含め、1つの大学・学部
にしか出願できません。

ア-1 学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）

学 部 名	学 科 等 名
国際地域創造学部	国際地域創造学科（昼間主コース・夜間主コース）
教 育 学 部	学校教育教員養成課程 中学校教育コース 教科教育専攻 技術教育専修
農 学 部	亜熱帯地域農学科，亜熱帯農林環境科学科，地域農業工学科， 亜熱帯生物資源科学科（健康栄養科学コースを除く）

ア-2 学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）「英語重視」

学 部 名	学 科 等 名
教 育 学 部	学校教育教員養成課程 中学校教育コース 教科教育専攻 英語教育専修

上記ア-1・2の学部・学科等において、高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストを免除し、個別学力検査等の成績，調査書，推薦書及び志願理由書を総合判定して入学者を選抜します（実施学部のページを参照）。

イ 学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

学 部 名	学 科 等 名
人 文 社 会 学 部	国際法政学科，人間社会学科（哲学プログラム，心理学プログラム，社会学プログラム），琉球アジア文化学科
教 育 学 部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 学校教育専攻，教科教育専攻（国語教育専修，社会科教育専修，数学教育専修，理科教育専修，音楽教育専修，美術教育専修，保健体育専修，技術教育専修，生活科学教育専修，英語教育専修），特別支援教育コース 特別支援教育専攻 特別支援教育専修
理 学 部	物質地球科学科（物理系・地球環境系），海洋自然科学科（化学系・生物系）
医 学 部	医学科，保健学科
工 学 部	工学科（機械工学コース，エネルギー環境工学コース，電気システム工学コース，電子情報通信コース，社会基盤デザインコース，建築学コース，知能情報コース）

上記イの学部・学科等において、高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績，各学部が定める個別学力検査等の成績，調査書，推薦書及び志願理由書を総合判定して，入学者を選抜します（実施学部のページを参照）。

③ 社会人特別選抜

学 部 名	学 科 等 名
国際地域創造学部	国際地域創造学科（夜間主コース）
工 学 部	工学科（機械工学コース，エネルギー環境工学コース，電気システム工学コース，電子情報通信コース，社会基盤デザインコース，建築学コース，知能情報コース）

上記③の学部・学科等においては、共通テストを免除し、各学部が定める個別学力検査等の成績，志願理由書，履歴書，調査書を総合判定して，入学者を選抜します（実施学部のページを参照）。

【5】令和6年度入学者選抜方法等

(1) 入学者選抜方法等（一般選抜，専門高校・総合学科卒業生選抜）

選抜方法等			個別学力検査等						専門高校・総合学科卒業生選抜				個別学力検査等の日程	備考						
			個別学力検査を課す	実技検査等			2段階選抜			個別学力検査を課す	実技検査等				募集人員					
				実技検査を課す	面接又は口頭試問を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	共通テストの成績により第1次段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1次段階の選抜による合格者		定員に対する倍率	その他				実技検査を課す	面接又は口頭試問を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	
学部・学科等																				
人文社会学部	国際法政学科	前期	○	×	×	×	×	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	2月25日	欠員の補充の方法等						
		後期	×	×	×	○	×						3月12日							
	人間社会学科	前期	×	×	×	○	×						2月25日							
		後期	×	×	○	×	×						3月12日							
	琉球アジア文化学科	前期	×	×	○	○	×						2月25日							
		後期	×	×	○	×	×						2月26日							
国際地域創造学部	昼間主コース	国際地域創造学科 (国際的思考系)	前期	○	×	×	×	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	2月25日	追加合格を実施して、なお欠員がある場合には、欠員補充第2次募集を行うことがある							
			後期	×	×	×	○					×		3月12日						
		(論理的思考系)	前期	×	×	×	○					×		2月25日						
			後期	×	×	×	○					×		3月12日						
		(数学的思考系)	前期	○	×	×	×					×		2月25日						
			後期	×	×	×	○					×		2月25日						
	夜間主コース	国際地域創造学科 (国際的思考系)	前期	○	×	×	×					2月25日								
			後期	×	×	×	○					×		3月12日						
		(論理的思考系)	前期	×	×	×	○					×		2月25日						
			後期	×	×	×	○					×		3月12日						
		教育学部	小学校教育コース	学校教育専攻	前期	×	×					○		○	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	2月25日	追加合格を実施して、なお欠員がある場合には、欠員補充第2次募集を行うことがある
				教科教育専攻	前期	○	×					○		×					×	
中学校教育コース	教科教育専攻		国語教育専修	前期	○	×	○	×	×	2月25日										
			社会科教育専修	前期	×	×	○	○	×	2月25日										
			数学教育専修	前期	○	×	○	×	×	2月25日										
			理科教育専修	前期	○	×	○	×	×	2月25日										
			音楽教育専修	前期	○	○	○	×	×	2月25日										
			美術教育専修	前期	○	○	○	×	×	2月25日										
			保健体育専修	前期	×	○	○	×	×	2月25日										
			技術教育専修	前期	○	×	○	×	×	2月25日										
			生活科学教育専修	前期	×	×	○	○	×	2月25日										
			英語教育専修	前期	○	×	○	×	×	2月25日 注5参照										
特別支援コース	特別支援専攻	特別支援教育専修	前期	×	×	○	×	×	2月25日											

学部・学科等		選抜方法等		個別学力検査等						専門高校・総合学科卒業生選抜			個別学力検査等の日程	備考 欠員の補充の方法等		
				実技検査等			2段階選抜			個別学力検査を課す	実技検査等				募集人員	
				個別学力検査を課す	実技検査を課す	面接又は口頭試問を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	外国語におけるリスニングテストを課す		共通テストの成績により第1次段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1次段階の選抜による合格者				定員に対する倍率
理学部	数 理 科 学 科	前期	○	×	×	×	×	実施しない	実施しない	2月25日	3月12日	追加合格を実施して、なお欠員がある場合には、欠員補充第2次募集を行うことがある				
		後期	○	×	×	×	×									
	物 質 地 球 科 学 科	前期	○	×	×	×	×									
		後期物理系	×	×	×	×	×									
		後期地球環境系	×	×	×	○	×									
	海 洋 自 然 科 学 科	前期	○	×	×	×	×									
		後期化学系	×	×	×	×	×									
		後期生物系	×	×	×	○	×									
	医学部	医 学 科	前期	○	×	○	×						×	○	約5倍	×
後期			×	×	○	○	×	○	約10倍	×	2月26日					
保 健 学 科		前期	○	×	○	×	×	実施しない	2月25日	2月26日						
		後期	×	×	○	○	×				3月12日					
工学部	工 学 科	前期	○	×	×	×	×	実施しない	実施しない	2月25日						
		後期	×	×	×	×	×			注5参照						
農学部	亜 熱 帯 地 域 農 学 科	前期	○	×	×	×	×	実施しない	実施しない	2月25日						
		後期	×	×	○	×	×			3月12日						
	亜 熱 帯 農 林 環 境 科 学 科	前期	○	×	×	×	×			2月25日						
		後期	×	×	○	×	×			3月12日						
	地 域 農 業 工 学 科	前期	○	×	×	×	×			2月25日						
		後期	×	×	○	×	×			3月12日						
	亜 熱 帯 生 物 資 源 科 学 科	前期	○	×	×	×	×			2月25日						
		後期	×	×	○	×	×			3月12日						
	健康栄養科学コース	前期	○	×	×	×	×			2月25日						

注：

- 印は実施する、×印は実施しないことを表します。
- 後期日程の人文社会学部琉球アジア文化学科の個別学力検査は、「口頭試問」を行います。
- 前期日程の教育学部学校教育教員養成課程中学校教科教育コース教科教育専攻（音楽教育専修・美術教育専修・保健体育専修）の試験実施方法は、「7. 実技検査等実施方法（教育学部）」（72～74ページ）を参照すること。
- 教育学部学校教育教員養成課程中学校教科教育コース教科教育専攻（英語教育専修）の面接は、一部英語による面接試験を行います。
- 後期日程の選抜で個別学力検査及び実技検査等を課さない場合は、共通テストの成績及び調査書の内容を総合して判定します。

(2) 特別選抜の概要

学部・学科等		選抜方法等	学校推薦型選抜						総合型選抜		帰国生徒・社会人・私費外国人留学生のための特別選抜			
			入学定員の一部について、出身高校等の長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する。						I	II				
			推薦I	推薦II	実技検査等			募 集 人 員						
			個別学力検査及び共通テストを免除する	個別学力検査を免除し共通テストを課す	実技検査を課す	面接又は口頭試問を行う	小論文を課す							外国語におけるリスニングテストを課す
人文社会学部	国際法政学科	×	○	×	○	○	×		16名	×	×	○	×	○
	人間社会学科	哲学プログラム	×	○	×	○	○	×	5名	×	×	○	×	○
		心理学プログラム	×	○	×	○	○	×	8名	×	×	○	×	○
		社会学プログラム	×	○	×	○	○	×	8名	×	×	○	×	○
	琉球アジア文化学科	×	○	×	○	○	×	6名	×	×	○	×	○	
創造国際学部	昼間主コース	国際地域創造学科	○	×	×	○	○	×	50名	×	×	○	×	○
	夜間主コース	国際地域創造学科	○	×	×	○	○	×	13名	×	×	×	○	×
教育学部	学校教育専攻	学校教育専攻	×	○	×	○	○	×	※1 10名	○	×	×	×	×
		国語教育専修	×	○	×	○	○	×	2名	×	×	×	×	×
		社会科教育専修	×	○	×	○	○	×	2名	×	×	×	×	×
		数学教育専修	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×
		理科教育専修	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×
		音楽教育専修	×	○	○	○	○	×	2名	×	×	×	×	×
		美術教育専修	×	○	×	○	○	×	2名	×	×	×	×	×
		保健体育専修	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×
		技術教育専修	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	×
		生活科学教育専修	×	○	×	○	○	×	2名	×	×	×	×	×
	中学校教育専攻	国語教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		社会科教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		数学教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		理科教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		音楽教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		美術教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
		保健体育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		技術教育専修	○	×	×	○	×	×	1名	×	×	×	×	×
		生活科学教育専修	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		英語教育専修	○	×	×	○	×	×	1名	×	×	×	×	×
特別支援教育	特別支援教育専攻	特別支援教育専修	×	○	×	○	×	×	2名	×	×	×	×	

学部・学科等		選抜方法等	学校推薦型選抜						総合型選抜		帰国生徒・社会人・私費外国人留学生のための特別選抜			
			入学定員の一部について、出身高校等の長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する。						募集人員	I 共通テストを課さない	II 共通テストを課す	帰国生徒	社会人	私費外国人留学生
			推薦I	推薦II	実技検査等			外国人語におけるリスニングテストを課す						
			個別学力検査を免除する	個別学力検査を免除し共通テストを課す	実技検査を課す	面接又は口頭試問を行う	小論文を課す							
理学部	数理学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
	物質地球科学	物理系	×	○	×	○	×	×	5名	×	×	○	×	○
		地球環境系	×	○	×	○	×	×	3名	×	×	○	×	○
	海洋自然科学	化学系	×	○	×	○	×	×	10名	×	×	○	×	○
生物系		×	○	×	○	×	×	1名	×	×	○	×	○	
医学部	医学科	×	○	×	○	○	×	※2 5名	×	×	×	×	×	
	保健学科	×	○	×	○	×	×	9名	×	×	○	×	○	
工学部	工学科	機械工学コース	×	○	×	○	×	×	11名	○	×	×	○	○
		エネルギー環境工学コース	×	○	×	○	×	×	7名	○	×	×	○	○
		電気システム工学コース	×	○	×	○	×	×	9名	○	×	×	○	○
		電子情報通信コース	×	○	×	○	×	×	7名	○	×	×	○	○
		社会基盤デザインコース	×	○	×	○	×	×	10名	○	×	×	○	○
		建築学コース	×	○	×	○	×	×	10名	○	×	×	○	○
農学部		知能情報コース	×	○	×	○	×	×	14名	○	×	×	○	○
		亜熱帯地域農学科	○	×	×	○	○	×	5名	×	○	○	×	○
		亜熱帯農林環境科学科	○	×	×	○	○	×	5名	×	○	○	×	○
		地域農業工学科	○	×	×	○	○	×	5名	×	○	○	×	○
		亜熱帯生物資源科学科	○	×	×	○	○	×	6名	×	○	○	×	○
	健康栄養科学コース	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	

※1 沖縄県内地域指定推薦2名，一般推薦8名。
 ※2 募集人員の詳細については，3ページ参照。

【6】学校推薦型選抜の推薦人員

学部	学 科 等		推 薦 人 員	
人文社会学部	国 際 法 政 学 科		1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内。	
	人 間 社 会 学 科	哲学プログラム	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内。	
		心理学プログラム	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき5名以内。	
		社会学プログラム	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内。	
	琉 球 ア ジ ア 文 化 学 科		1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内。	
創造国際学地域	昼 間 主 入 学 科	国 際 地 域 創 造 学 科	各高等学校等の長が推薦できる人員は、1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき昼間主は6名、夜間主は3名以内とします。ただし、専門高校卒業生枠については、昼間主は2名、夜間主は2名以内とし、専門高校卒業生枠は内数とします。	
	夜 間 主 入 学 科	国 際 地 域 創 造 学 科		
教育学部	学校教育教員養成課程	小 学 校 教 育 コ ー ス	学 校 教 育 専 攻	① 沖縄県内地域指定推薦 1 高等学校等（定時制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。
			② 一般推薦 1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
			※①沖縄県内地域指定推薦と②一般推薦の両方の枠に同一人物を推薦することはできません。	
		教 科 教 育 専 攻	国 語 教 育 専 修	各専修とも1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。
			社 会 科 教 育 専 修	
			数 学 教 育 専 修	
			理 科 教 育 専 修	
			音 楽 教 育 専 修	
			美 術 教 育 専 修	
			保 健 体 育 専 修	
中 学 校 教 育 コ ー ス	教 科 教 育 専 攻	技 術 教 育 専 修		
		英 語 教 育 専 修		
特 別 支 援 教 育 コ ー ス	特 別 支 援 教 育 専 攻	特 別 支 援 教 育 専 修		
理学部	物 質 地 球 科 学 科	物 理 系	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
		地 球 環 境 系	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
	海 洋 自 然 科 学 科	化 学 系	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
		生 物 系	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
医学部	医 学 科		1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内。	
	保 健 学 科		1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内。	
工学部	工 学 科	機 械 工 学 コ ー ス	1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）の長が推薦できる人数は、制限しません。	
		エ ネ ル ギ ー 環 境 工 学 コ ー ス		
		電 気 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス		
		電 子 情 報 通 信 コ ー ス		
		社 会 基 盤 デ ザ イン コ ー ス		
		建 築 学 コ ー ス		
		知 能 情 報 コ ー ス		
農学部	亜 熱 帯 地 域 農 学 科		各学科とも1 高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき2名以内。ただし、1 高等学校等から農学部へ推薦可能な人員は5名とします。	
	亜 熱 帯 農 林 環 境 科 学 科			
	地 域 農 業 工 学 科			
	亜 熱 帯 生 物 資 源 科 学 科 (健康栄養科学コースを除く)			

【12】全学部の基本的な合否判定基準

※受験を希望する学部の合否判定基準については、各学部のページを確認してください。

一般選抜

- 共通テストの成績と個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 共通テスト及び個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査、小論文、面接等を含む）でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

総合型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）

- 個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査、小論文、面接等を含む）でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

総合型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

- 共通テスト及び個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査、小論文、面接等を含む）でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）

- 個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査、小論文、面接等を含む）でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

- 共通テストの成績と個別学力検査等の成績等、「学生募集要項」に記載された配点に基づく総合得点により、上位から順次合格者とします。（ただし、人文社会学部の人間社会学科、教育学部の学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻、小学校教育コース教科教育専攻（国語教育専修・社会科教育専修・数学教育専修・音楽教育専修・保健体育専修・英語教育専修）を除く）
- 共通テスト及び個別学力検査等のいずれか1科目（実技検査、小論文、面接等を含む）でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

社会人特別選抜

- 個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 個別学力検査等（実技検査、小論文、面接等を含む）のいずれか1科目でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

帰国生徒特別選抜

- 個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 個別学力検査等（実技検査、小論文、面接等を含む）のいずれか1科目でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

私費外国人留学生特別選抜

- 日本留学試験及び個別学力検査等の成績の総合得点により、上位から順次合格者とします。
- 日本留学試験及び個別学力検査等（実技検査、小論文、面接等を含む）のいずれか1科目でも欠席又は0点の者については、不合格とします。

【13】各学部の入学者選抜について

医 学 部

医学部では、次の入学者選抜を実施します。

医学科

- 1) 一般選抜（前期日程・後期日程）
- 2) 学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

保健学科

- 1) 一般選抜（前期日程・後期日程）
- 2) 学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）
- 3) 帰国生徒特別選抜
- 4) 私費外国人留学生特別選抜

募集人員は次のとおりです。

学 部	学科・課程・(選抜方式)等	入学 定員 (名)	募 集 人 員 (名)								
			一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜		社会人	帰国 生徒	私 費 外国人
			分離分割方式		共通テスト を課さない	共通テスト を課す	共通テスト を課さない	共通テスト を課す			
			前期日程	後期日程							
医	医 学 科	100	70	25				5			
学	保 健 学 科	60	41	10				9		若干名 若干名	
部	計	160	111	35				14			

注：医学部医学科の学校推薦型選抜（共通テストを課す）の募集人員については、3ページを参照してください。

1. 一般選抜（前期日程・後期日程）…………… 102～103ページ
2. 学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）…………… 104～105ページ
3. 帰国生徒特別選抜…………… 106ページ
4. 私費外国人留学生特別選抜…………… 107ページ
5. 個別学力検査等の採点・評価基準…………… 107～108ページ
6. 合否判定基準…………… 108ページ
7. 2段階選抜（医学部医学科）…………… 109ページ
8. 募集人員の留意事項…………… 109ページ

各選抜の出願手続、出願書類、個別学力検査等の実施日時及び試験会場等については、「学生募集要項」を必ず確認してください。

「学生募集要項」は本学ホームページに掲載します。（22ページ参照）

1. 一般選抜（前期日程・後期日程）
令和6年度入学者選抜の実施教科・科目等

学部・学科等名 及び入学定員等 〔令和5年度〕 〔志願倍率〕	区学 分 ・ 査 日 等 程の	共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
医学部 17.81 11.2名 17.2名 前期 70 前期 111 後期 25 後期 35 その他17 その他14	前期 2月 25日 公民 26日 教 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から1 現社, 倫・政経 教I・教A 教II・教B 物理, 化学, 生物から2 英	(5教科7科目)	外	英(コミュ英I ・コミュ英II ・コミュ英III ・英表I ・英表II) ※リスニング は除く
				数	(数I・数II・ 数III・教A・ 教B)
	後期 3月 12日			その他 面接	約5倍
保健学科 6.0名 前期41 後期10 その他9	前期 2月 25日 公民 26日 教 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から1 現社, 倫・政経 教I・教A 教II・教B 物理, 化学, 生物から2 英	(5教科7科目)	数	(数I・数II・ 数III・教A・ 教B)
				理	(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物 から1)
	後期 3月 12日			その他 面接	約10倍

○配点に*印を付してある教科は、選択教科を表す。

医学部

試験の区分	共通テスト						個別学力検査等				配点等			特別選抜 方法等
	国語	歴史	公民	数学	理科	外国語	実技検査	筆記試験	面接	口頭 試験	小論文 調査書	配点 合計	推薦	
共通テスト	200	*100	200	200	200	200						900	追加合格	
個別学力検査等				200	200	200		200				800		
計	200	*100	400	400	400	400		200				1700		
共通テスト	200	*100	200	200	200	300						1000		
個別学力検査等								200		100		300		
計	200	*100	200	200	200	300		200		100		1300		
共通テスト	300	*100	200	200	200	300						1100	推薦 帰国生徒 私 費 追加合格	
個別学力検査等				100	200			100				400		
計	300	*100	300	400	400	300		100				1500		
共通テスト	300	*100	200	200	200	300						1100		
個別学力検査等								200		100		300		
計	300	*100	200	200	200	300		200		100		1400		

2. 学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

※国公立大学の学校推薦型選抜は、共通テストを課すもの及び課さないものを含め、1つの大学・学部にし
か出願できません。

※「経済財政運営と改革の基本方針2019」による増員申請が認められた場合、申請の結果について、本
学ホームページ等で公表します。（3ページ参照）

学校推薦型選抜Ⅱ－1

実施学部 ・学科等	医学部 医学科
募集人員	【申請が認可されない場合】 5名
	【申請が認められた場合】 地域枠 14名程度（※出願要件（2）除く） 離島・北部枠 3名程度
出願要件	<p>次の（1）～（5）に該当する者</p> <p>（1）沖縄県に居住し、沖縄県の高等学校等（*）を令和4年4月1日以降に卒業した者及び令和6年3月に卒業見込みの者で出身学校長から推薦を受けた者</p> <p>（2）沖縄県に居住し、沖縄県内離島地域（石垣市、宮古島市、久米島町）ならびに沖縄県本島北部地域（大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、宜野座村）に所在する高等学校等を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>（3）沖縄県で将来の医療を担う強い意志があり、かつ沖縄県が貸与する奨学金の受給を希望する者</p> <p>（4）人物、学力ともに優れ、健康で、高等学校等における全体の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>（5）合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>※沖縄県からの奨学金（医師修学資金）の概要 本選抜での入学者全員に対し、沖縄県が学費、生活費など修学に必要な資金を貸し付けます。入学者は、卒業までの6年間奨学金を受給する必要があります。 大学卒業後は、沖縄県地域枠キャリア形成プログラムのもとで原則として琉球大学病院にて臨床研修医として勤務し、その後は沖縄県知事が指定する医療機関に医師として臨床研修を合せて9～13年間勤務していただきます（うち離島・北部の医療機関に4年間）。この場合、奨学金貸与額の全額の返還が免除されます。 （参考）沖縄県地域枠キャリア形成プログラム (http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp/uploads/2021/04/6fcfef2e033986bd6ce59acb86b619b9-1.pdf)</p>
選抜方法等	<p>高等学校等の長の推薦に基づき、共通テストの成績、個別学力検査等の成績、調査書、推薦書及び志願理由書を総合して選考します。</p> <p>○共通テスト利用教科・科目（5教科7科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国（国） ・地歴（世B、日B、地理B） ・公民（現社、倫・政経） ・数（数Ⅰ・数A） （数Ⅱ・数B） ・理（物理、化学、生物から2） ・外（英） <p>○個別学力検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小論文 ・面接
出願期間	令和5年11月 1日（水）～11月 4日（土）
選抜期日	令和5年12月 6日（水）
合格発表	令和6年 2月 9日（金）
その他	各高等学校等の長が推薦できる人数は、1高等学校等（定時制及び通信制の課程を含む）につき3名以内

*「高等学校等」とは、高等学校、高等部を置く特別支援学校及び中等教育学校並びに文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程をいう。

4. 私費外国人留学生特別選抜

医学部保健学科では、私費外国人留学生特別選抜を実施します。詳細は134～136ページを参照してください。

5. 個別学力検査等の採点・評価基準

① 教科・科目

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○読解問題では、情報や概念などを理解する力、概要や要点を捉える力、文章の論理的な構成を理解する力を語彙、文法、論理性の観点から総合的に評価します。 ○口頭表現問題では、場面や目的に応じた基本的な慣用句や熟語、英語的言い回しの習熟度等の観点から評価します。 ○作文問題では、内容、文章構成力、表現力の観点から評価します。 ○綴りや文法上誤りがあり、解答が完全に正しくない場合でもコミュニケーションの観点から理解可能であれば誤りの度合いに応じた部分点を与えます。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○記述式の問題を出題することにより、数学の基本的な知識・技能、論理的思考力及び表現力が身につけているかを評価します。 ○問題用紙に明記された配点に従って得点を合計します。 ○解答が完全に正しくない場合でも理解の度合いに応じた部分点を与えます。 ○記述式の問題の場合、途中の推論及び計算を記述せずに結論（最終的な答え）のみを書いても得点を与えません。
物 理	<ul style="list-style-type: none"> ○自然科学についての思考力、独創性、発想力及び表現力などを総合的に判断、評価します。 ○解答が完全に正しくない場合でも理解の度合いに応じた部分点を与えます。
化 学	<ul style="list-style-type: none"> ○自然科学についての思考力、独創性、発想力及び表現力などを総合的に判断、評価します。 ○解答が完全に正しくない場合でも理解の度合いに応じた部分点を与えます。
生 物	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の基礎的知識に加え、設問の内容を的確に判断し、論理的に記述・表現する力を、総合的に評価します。 ○解答が完全に正しくない場合でも理解の度合いに応じた部分点を与えます。
地 学	<ul style="list-style-type: none"> ○設問の趣旨をよく理解しているか、また、自然科学についての思考力、独創性、発想力及び表現力などが備わっているかを、総合的に判断、評価します。 ○解答（記述、計算）が完全には正しくない場合でも、理解の度合いに応じた部分点を与えます。

② 教科・科目以外の科目

※「社会人」は社会人特別選抜、「帰国」は帰国生徒特別選抜、「私費」は私費外国人留学生特別選抜を意味します。

ア) 医学科

一般選抜	小論文 (後期日程)	○思考力、独創性、発想力、表現力等を総合的に評価します。
	面接	○適性、意欲、表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。
学校推薦型 選抜Ⅱ	小論文	○思考力、独創性、発想力、表現力等を総合的に評価します。
	面接	○適性、意欲、表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○面接の参考にします。
	推薦書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。

イ) 保健学科

一般選抜	小論文 (後期日程)	○課題に対する理解力及び文章表現力(論理性, 独創性, 表現力等)を総合的に評価します。
	面接	○動機, 意欲, 適性, 表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。
学校推薦型 選抜Ⅱ	面接	○動機, 意欲, 適性, 表現力等を総合的に評価します。
	調査書	○学力, リーダーシップ, 課外活動, 表彰等を総合的に評価します。
	推薦書	○面接の参考にします。
	志願理由書	○面接の参考にします。
帰国	小論文	○課題に対する理解力及び文章表現力(論理性, 独創性, 表現力等)を総合的に評価します。
	面接	○動機, 意欲, 適性, 表現力等を総合的に評価します。
	成績証明書等 (調査書)	○面接の参考にします。
私費	面接	○動機, 意欲, 適性, 表現力等を総合的に評価します。

6. 合否判定基準

全学に適用される全学部的基本的な合否判定基準(24ページ)も併せて参照してください。

ア) 医学科

一般選抜	○合格ラインに同点者がいる場合には, 次の順序に従って順位を付して合格者とします。 ①個別学力検査等の高得点者 ②共通テストの外国語の高得点者 ③共通テストの数学の高得点者 ④共通テストの理科の高得点者 ⑤面接の高得点者
学校推薦型 選抜Ⅱ	○合格ラインに同点者がいる場合には, 次の順序に従って順位を付して合格者とします。 ①面接の高得点者 ②小論文の高得点者 ③共通テストの外国語の高得点者 ④共通テストの数学の高得点者 ⑤共通テストの理科の高得点者

イ) 保健学科

一般選抜	○合格ライン上に同点者がいる場合は, 次の順序に従って合格者を決めます。 ①個別学力検査等の高得点者 ②共通テストの英語の高得点者
学校推薦型 選抜Ⅱ	○共通テスト550点, 調査書300点, 面接250点の配点とし, 総合点1100点満点 で上位者から合格者とします。
帰国	○小論文, 面接等の評価に基づいて総合的に判定します。
私費	○日本留学試験, 面接の評価に基づいて総合的に判定します。

7. 2段階選抜（医学部医学科）

医学部医学科（一般選抜（前期日程・後期日程））において、入学志願者が前期日程は募集人員の約5倍、後期日程は募集人員の約10倍を超えた場合には、共通テストの成績（「令和6年度入学者選抜の実施教科・科目等」（102～103ページ参照）の配点による成績）による第1段階選抜を行い、その合格者について個別学力検査等による第2段階選抜を行うことがあります。実施の有無は、本学ホームページ〔入試情報〕でお知らせします。

8. 募集人員の留意事項

（1）定員補充について

①医学科及び保健学科では、学校推薦型選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合は、満たない分の募集人員を前期日程の募集人員に加えます。

学 科	募集人員に満たなかった選抜区分	満たない分の募集人員を加える選抜区分
医 学 科	学校推薦型選抜Ⅱ	一般選抜（前期日程）
保 健 学 科	学校推薦型選抜Ⅱ	一般選抜（前期日程）

②保健学科の前期日程の募集人員には、帰国生徒特別選抜及び私費外国人留学生特別選抜の募集人員を含みません。

学 科	該当する特別選抜	特別選抜の募集人員を含む選抜区分
保 健 学 科	帰国生徒特別選抜	一般選抜（前期日程）
	私費外国人留学生特別選抜	

（2）医学科では、入学後、一般コースと地域医療コースの2コースに分かれます。原則として、一般選抜（前期日程・後期日程）により入学した者は一般コース、学校推薦型選抜Ⅱにより入学した者は地域医療コースとなります。2つのコース間では入学者が受講する科目の一部が異なります。各コースの特徴は次の通りです。

一 般 コ ー ス：従来のカリキュラムをベースに、アクティブラーニング科目を受講する。

地 域 医 療 コ ー ス：従来のカリキュラムを基本としつつ、低学年次からプライマリ・ケアの能力を身に付けるための科目を受講する。

（3）保健学科では、入学後、看護学コース・検査技術学コースの2つのコースに分かれます。なお、看護学コースの学生は、2年次以降に、保健師（15名程度）、または助産師（6名程度）もしくは養護教諭（10名程度）の免許取得のためのカリキュラムをいずれか1つ選択することができます。選抜にあたっては、入学後の成績等を考慮します。

（4）欠員補充

入学手続完了者が入学定員に達しなかった場合に、追加合格を実施してなお欠員がある場合は、欠員補充第2次募集を行うことがあります。

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医104			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	前学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502170001	医学概論 B	1	
担当教員[ローマ字表記]			
宮里 実, 屋良 さとみ			

授業の形態

講義、実務経験講師

アクティブラーニング

授業内容と方法

医師になるための必要な素養は医学知識だけではありません。人間や社会を理解できる、また、科学的にものごとを考えることができるなどは、医師になるための第一歩とも言えます。アメリカでは、生物系、心理系などの学部を卒業後の学生が、医学部に入学し、そして医師になるための勉強を始めます。日本では、最初から医学部に入りますので、最初の1年次の間に教養的な科目として様々な内容を学ぶことになります。この講義では、身体の仕組みや病気など、医学に関する一般的な内容を広く知ってもらうことで、医学を学ぶ気持ちをさらに高め、医学の面白さを知り、医学について幅広く理解してもらうため、医師としての生涯学習への準備としてもらうために開講されています。またさらに、医師は知識や技能等を修め、それを生涯にわたって中断することなく発展させ社会に還元することが求められており、将来のキャリア形成に結び付き参考となるキャリア教育と、医師にとって重要な生命倫理の内容も盛り込まれます。本科目では各担当教員が、その科目に関する実務経験を有しています。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、専門性

達成目標

- ①人間や社会の中で医療の果たす役割を説明できる。
[U.社会性] 『C I. プロフェッショナリズム』
- ②医学知識を科学的に説明できるような情報を集めることができる。
[U.専門性] 『CII. 医学知識』
- ③医学の面白さを知り、医師としての生涯学習への目標が説明できる。
[U.自律性] 『C I. プロフェッショナリズム』
- ④様々なキャリアを知ることにより、自らの将来のキャリア形成を具体的に説明できる。
[U.自律性] 『C I. プロフェッショナリズム』
- ⑤医師に必要な（生命）倫理に関して説明できる。
[U.自律性・社会性] 『C I. プロフェッショナリズム』

評価基準と評価方法

- ・講義への出席（担当者によってはレポート、ミニテスト、アンケート）
成績不服申立期間は、成績発表後1週間とする。

履修条件

特になし。

授業計画

実施月日 所属 テーマ 担当者

- 1 4月18日 麻酔科学 麻酔とは? 垣花 学
- 2 4月25日 医学部長 医師に求められるプロフェッショナリズム 筒井 正人
- 3 5月 2日 第二外科 医師という仕事～心臓血管外科医の立場から～ 古川 浩二郎
- 4 5月 9日 地域・国際医療部 生命倫理 金城 隆展
- 5 5月16日 形成外科 医師による企業-ベンチャー設立- 清水 雄介
- 6 5月23日 産科婦人科沖縄県医師会女性医師部会 男女協同参画が叶える あきらめないキャリアプラン 銘苅 桂子、新垣
- 7 5月30日 病院長 理想の臨床医像とジレンマ 大屋 祐輔
- 8 6月 6日 臨床薬理学 臨床医と薬剤 植田 真一郎
- 9 6月13日 皮膚科 ヒトの皮膚の進化 高橋 健造
- 10 6月27日 第一内科 医師とグローバリズム 山本 和子
- 11 7月 4日 沖縄県地域医療支援センター 地域医療とジェネラリズム 川妻 由和
- 12 7月18日 医系技官 政府機関で働く医師の役割 知念 希和
- 13 7月25日 腎泌尿器外科 医学と糖鎖（血液型など） 齋藤 誠一
- 14 8月 1日 第二内科 目覚ましい進歩と発展を続ける血液内科診療 仲地 佐和子
- 15 8月 8日 第一外科 臓器移植について 高槻 光寿

時間：毎週火曜日7時限目（16：40～17：40）
※千原キャンパスから移動のため、開始時間を遅らせております。
場所：臨床講義棟2階大講義室

事前学習

15回の講義内容に関する内容を各々調べ事前学習する。

事後学習

15回の講義内容に関する内容を復習し、理解を深める。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	特に既定のものなし。			ISBN	備考
	著者名					
	出版社	出版年	NCID			

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書	書名	女性医師としての生き方 医師としてのキャリアと人生設計を模索して			ISBN	備考
	著者名	片井みゆき				
	出版社	出版年	NCID			

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

コアカリキュラムでの位置づけ
A医師として求められる基本的な資質・能力-1 プロフェッショナリズム-1) 医の倫理と生命倫理
-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢-1) 生涯学習への準備

B 社会と医学・医療－1集団に対する医療-6) 社会・環境と健康、－7) 地域医療・地域保健、
－3医学研究と倫理

■ オフィスアワー

医学教育企画室 屋良さとみ

オフィス・アワー：水曜日10～17時

E-mail : f040621@med.u-ryukyu.ac.jp Tel : 098-895-1214

■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ URL

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医101			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	通年	その他	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
501003001	外来患者付添い実習	1	
担当教員[ローマ字表記]			
宮里 実, 屋良 さとみ			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

【2年次】

各科の外来診療に早期学年にて参加し接し、各科の診療を見学し、さらに患者さんやそのご家族の心を察することにより、良医になるためのモチベーションを維持し、より高めるために、医師に紹介頂いた外来患者さんと病院内で終始共に行動し、コミュニケーションを図る。

本科目では学生が実習により実務に触れることができる。

(本来は、医学科1年次で行うべき実習であるが、令和3年度がコロナ禍にて実施不可であったため、令和4年度は2年次で行う。)

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、コミュニケーション・スキル、専門性

達成目標

①患者さんやご家族の心を察することができる。[U.社会性] 『C IV.コミュニケーション能力』

②医学臨床に関する一般的な内容を知ることができる。[U.専門性] 『CII.医学知識』

③人間や社会の中で医療の果たす役割を説明できる。

[U.社会性] 『C I.プロフェッショナリズム』

④医学の面白さを知り、医師としての生涯学習への準備とすることができる。

[U.自律性] 『C I.プロフェッショナリズム』

評価基準と評価方法

- ・実習への出席 (20%) (達成目標 ①②)
- ・実習レポート (40%) (達成目標 ③④)
- ・各科教員との振り返り等にて評価 (40%) (達成目標 ②④)

※実習終了後、実習レポートをWebClassにて提出すること

- レポート様式：A4用紙 1枚程度 (Word)

※WebClassの使用方法については、「情報基盤統括センター」ホームページ内の

マニュアルを参考にしてください。 <http://www.cnc.u-ryukyu.ac.jp/>

成績不服申立期間は、成績発表後1週間とする。

履修条件

「M1シミュレーション演習」を履修していることが望ましい。

授業計画

実習形式

場所：各科 外来

日時：令和5年8月16日（水）～9月8日（金）の夏休みの1日を選択して行う。

※ 6月7日（水）16：30から実習に関する説明会を行う。（1-2年次 合同）
（場所：臨床講義棟 2F 大講義室）

事前学習

・患者さんに案内出来るように、琉球大学病院の外来フロアを見取り図等にて把握しておく。（ネット検索等）

事後学習

※実習終了後、実習レポートをWebClassにて提出すること

■レポート様式：A4用紙 1枚程度（Word）

※WebClassの使用方法については、「情報基盤統括センター」ホームページ内の

マニュアルを参考にしてください。<http://www.cnc.u-ryukyu.ac.jp/>

教科書にかかわる情報

教科書	書名	特に既定のものはない。			ISBN		備考
	著者名						
	出版社	出版年		NCID			

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書	書名	特に既定のものはない。			ISBN		備考
	著者名						
	出版社	出版年		NCID			

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

・入学時に提示された各種ウイルス抗体価が「陽性」ではない場合、実習説明会までにワクチン接種をしておくこと。

オフィスアワー

医学教育企画室 屋良さとみ

オフィス・アワー：水曜日10～17時

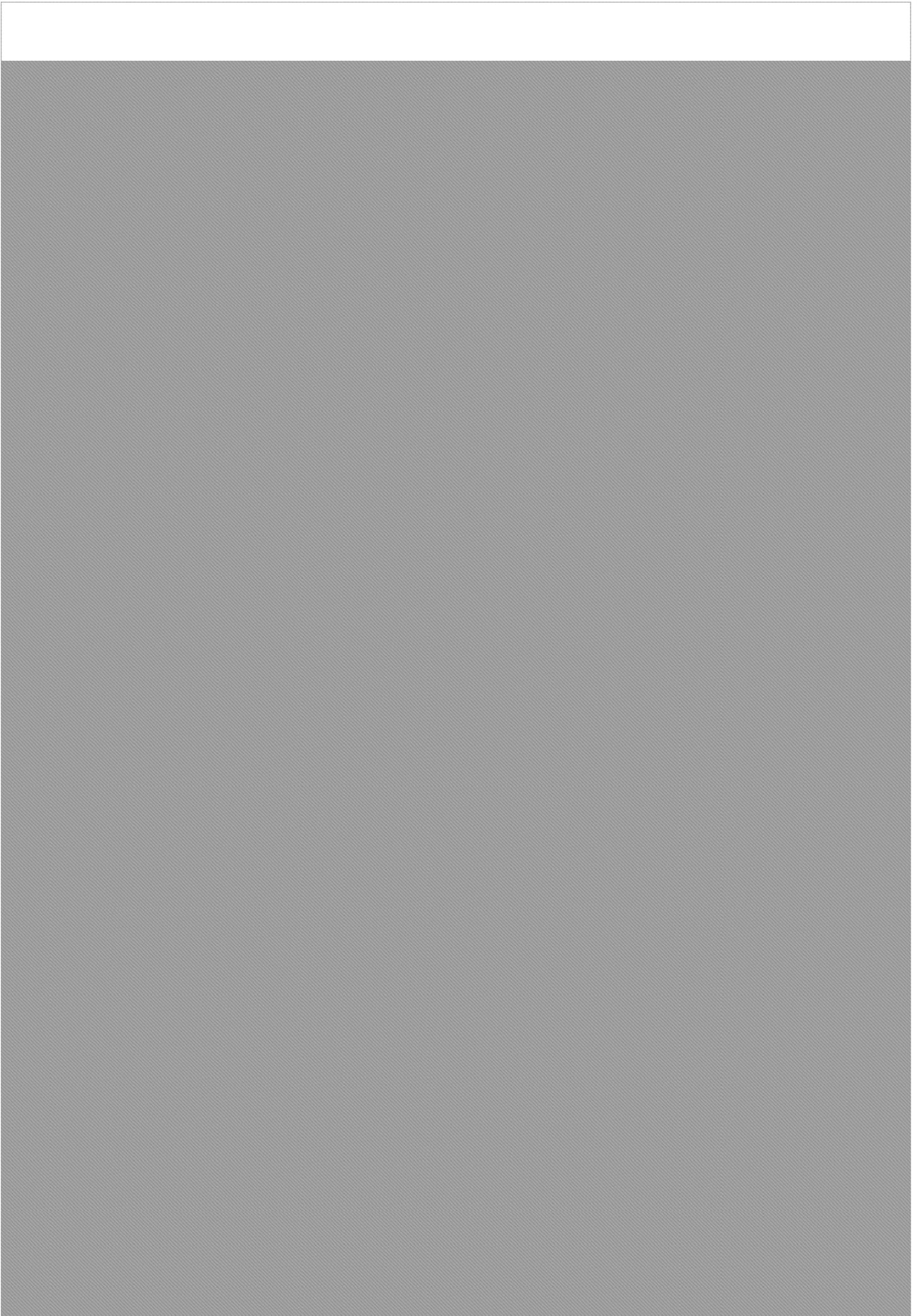
E-mail：f040621@med.u-ryukyu.ac.jp

Tel：098-895-1214

メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

URL



科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医112			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	後学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502172002	プライマリ・ケア演習 I	2	
担当教員[ローマ字表記]			
宮里 実, 大野 真治			

授業の形態

演習又は実験、実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

※プライマリ・ケア演習 I は「地域医療コース」の必修科目です。

プライマリ・ケアとは、地域の健康上の問題や疾病に対して、総合的、継続的、全人的に対応する保健・医療・福祉サービスのことを意味します。小グループでのアクティブラーニングを通して、地域医療に携わるにあたり必要とされる態度や医療技術を身につけることが目標です。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

- ・プライマリ・ケア診療で必要とされる技術・態度について説明できる。
- ・主訴に応じて必要な医療面接・身体診察を挙げることができる。
- ・症状の背景にある生理学的な異常を説明することができる。

評価基準と評価方法

- ・届け出なしに講義を1/5以上欠席した場合には単位認定を行わない。病気、忌引きの場合には必要書類を提出すること。
- ・提出課題（50%）
- ・レポート（50%）

履修条件

「地域医療コース」の必修科目です。該当学生は忘れずに登録してください。

授業計画

下記の1-3時限

内容が変更になる場合もあります。その時にはWebClassを通して連絡します。

10月31日	医療面接・身体診察の基本
11月7日	胸痛①
11月14日	胸痛②
11月21日	腹痛①
11月28日	腹痛②
12月5日	頭痛①
12月12日	頭痛②
12月19日	総括

事前学習

別途提示する課題を、WebClassより提出してください

事後学習

別途提示する課題を、WebClassより提出してください

教科書にかかわる情報

教科書	書名	内科学 第12版			ISBN	978-4-254-32280-4	備考	分冊版の第一巻を中心に使用します
	著者名	矢崎義雄 小室一成 (総編集)						
	出版社	朝倉書店	出版年	2022	NCID			
教科書	書名	標準生理学 第9版			ISBN	978-4-260-03429-6	備考	「人体の構造と機能」と共通です
	著者名	本間研一 監修						
	出版社	医学書院	出版年	2019	NCID			
教科書	書名	グレイ解剖学原著第4版			ISBN	978-4-860-34660-7	備考	「解剖学実習・骨学実習」、「人体の構造と機能」と共通です
	著者名	Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell著 秋田恵一訳						
	出版社	エルゼビア・ジャパン	出版年	2019	NCID			
教科書	書名	ベインズ・ドミニチャク生化学 原書4版			ISBN	978-4-621-30169-2	備考	「分子細胞生物学」と共通です
	著者名	谷口直之・岩井一宏・藤井順逸・本家孝一監訳						
	出版社	丸善出版	出版年	2018	NCID			
教科書	書名				ISBN		備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書	書名	考える技術			ISBN	978-4-296-10663-9	備考	
	著者名	スコット・スターン アダム・シーファー ダイアン・オールドカーム (編) 竹本毅 (訳)						
	出版社	日経BP	出版年	2020	NCID			

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

受講生の皆さんが医師になったときに必ず必要となる、態度やスキルを実践を通して身につけてもらう科目です。グループワークに積極的に参加してください。

オフィスアワー

医学教育企画室 (基礎研究棟3階350室)
事前にメールでアポイントを取ってください。

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
502153			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	後学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502153002	地域医療/プライマリ・ケア		
担当教員[ローマ字表記]			
梅村 武寛 [Takehiro Umemura], 武村 克哉			

授業の形態

講義

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

- ・講義を通して、地域医療の現状および課題、プライマリ・ケア領域でよく遭遇する症状や健康問題について、症例を中心に段階的に解決していくプロセスを学ぶ。またプライマリ・ケアにおける高齢者の診かた、行動変容理論に基づいた禁煙支援について学ぶ。
- ・離島/へき地医療・在宅医療を実践されている（された）医師による講義を通して、離島/へき地医療や在宅医療の現状および離島/へき地や在宅医療現場で求められる医師の役割を学ぶ。
- ・グループ討論を通して、日常診療で遭遇する倫理的問題を様々な視点から検討する方法を学ぶ。
- ・地域医療の課題についてレポートを作成する。作成したレポートはWebClassにて提出する。
- ・グループ討論を通して、地域医療の課題を議論し、発表する。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

- 1) 地域医療の現状および課題を概説できる。[社会性] [地域・国際性]
- 2) 離島/へき地で勤務する医師に求められる役割を具体的に述べるができる。[社会性] [地域・国際性]
- 3) プライマリ・ケア領域でよく遭遇する疾患や健康問題について列挙し、説明することができる。[問題解決力] [専門性]
- 4) 在宅医療における医師の役割を具体的に述べるができる。[社会性] [地域・国際性]
- 5) 日常診療で遭遇する倫理的問題を検討する方法を述べるができる。[コミュニケーション・スキル]
- 6) 地域医療の課題について調べ、レポートを作成することができる。[自律性] [情報リテラシー]

評価基準と評価方法

講義毎の小テスト(50%)、レポートの内容(50%)で評価を行う。

※レポートの課題は、「離島・へき地医療」、「プライマリ・ケア」、「在宅医療」のいずれかの項目とする。以下の作成手順に添って作成すること。

【レポートの作成手順】

- (1) 自分で調べた内容
- (2) 授業の内容で自分にとって新しい発見、学んだこと
- (3) 今後の自分への影響
- (4) レポートで選択した「テーマ」は今後も取り上げられるべきか
- (5) この授業で他に取り上げてほしいテーマ、項目

※レポートの締め切り：2024年2月12日（月）までに、WebClassで提出すること（締め切り厳守）

履修条件

特になし

■ 授業計画

2024年

1月17日：総論/プライマリ・ケア領域の健康問題へのアプローチ

このコース全体の説明を行う。地域医療に求められる役割、地域医療の現状および課題、プライマリ・ケアとは何かを学ぶ。プライマリ・ケア領域でよく遭遇する症状や健康問題について、症例を中心に段階的に解決していくプロセスを学習し、プライマリ・ケア診療に求められる知識やスキルを学ぶ。

1月22日：プライマリ・ケアと離島医療（公益社団法人地域医療振興協会/与那国診療所 崎原永作先生）

1月24日：沖縄のへき地医療と医師像（沖縄県立中部病院 照屋周造先生）

へき地・離島医療を実践されている（された）医師から、その現状についてお話を伺う。へき地・離島ならではの診療の楽しさと難しさ、求められる知識と技術、離島の医生活、支援体制、キャリアパスなど。離島診療所および離島中核病院における医師の役割について考える。

1月25日：プライマリ・ケア医の一日（稲福内科医院 稲福徹也先生）

実際に開業されている医師から、診療所医師としてのやりがいと楽しさ、診療所に求められるものは何か、医師の生活とそのQOLなどについてお話を伺う。勤務医とはどのような点で異なるか、プライマリ・ケア診療に必要な最新の知識やスキルをどのように修得するか、病院との連携や役割分担についても学ぶ。

1月31日：在宅医療における医師の役割（きなクリニック 喜納美津男先生）

在宅医療に携わっている医師から、在宅医療の実際について学ぶ。どのような患者が在宅医療を受けているか、在宅医療でよく遭遇する病状や問題、在宅医療を支えるケアチーム等について伺い、在宅医療を支える人と制度、家族の役割を知る。

2月8日：倫理的な問題へのアプローチ（琉球大学病院地域・国際医療部 金城隆展先生）

グループ討論を通して、日常診療で遭遇する倫理的問題を様々な視点から検討する手法を学ぶ。

2月14日：コース総括/プライマリ・ケアにおける高齢者の診かた/行動変容理論に基づいた禁煙支援

グループ討論を通して、地域医療の課題を議論し、発表する。プライマリ・ケアにおける高齢者の診かた、高齢者総合機能評価（CGA）、行動変容理論に基づいた禁煙支援について学ぶ。

■ 事前学習

教科書参照

■ 事後学習

地域医療の課題についてレポートを作成し、WebClassにて提出する。

■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名	地域医療学入門			ISBN	978-4-7878-2384-7	備考
	著者名	（監修）日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会					
	出版社	診断と治療社	出版年	2019	NCID		

■ 教科書全体備考

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書全体備考

■ 使用言語

日本語

■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

実習内容

【当科の実習開始までに準備すること】

特になし

【集合場所、集合時間、持参するもの】

※状況によりオンラインで実施します。

集合場所：地域・国際医療部カンファレンス室

集合時間：実習初日 13 時 30 分

持参するもの：筆記用具

【到達目標】

1. プライマリ・ケアを体験する。
 - 病歴・身体診察を重視した診断推論を組み立てる、又はたどる。
 - 家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。
 - 患者や家族に不安感や不快感を与えないように配慮する。
2. 病診連携・病病連携を体験する。
3. 地域の在宅医療を体験する。
 - 医療の社会的側面（医療保険、公費負担医療、介護保険、社会福祉施設、在宅医療および介護など）の重要性を述べることができる。
4. 多職種連携のチーム医療を体験する。
 - 多職種連携の重要性を述べることができる。
5. 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。
 - 地域保健および健康増進の重要性を述べることができる。

【実習内容】

地域の診療所や大学病院総合診療外来実習および訪問診療への同行を通して、在宅医療を含む地域医療／プライマリ・ケアの実際を体験する。

【評価】 指導医の評価（指導医による観察 20%、実習レポート 80%）

【注意事項】

1. 実習の目的をしっかりとって臨むこと
2. 実習医療機関の指導者の指示に従うこと
3. 実習医療機関の業務に迷惑がかからないように心がけること
4. 服装、身だしなみに注意を払い、患者に不快な印象を与えないように配慮すること
5. 挨拶、時間の厳守など、社会人としてのマナーを身につけておくこと
6. やむを得ない理由で遅刻・早退・休む場合は必ず指導者（先方）に連絡し許可を得ること
7. 実習中にトラブルあるいは不慮の事故があった場合は必ず地域・国際医療部へ連絡すること

【日程表】

		月	火	水	木	金
第1週	午前	救急				地域の診療所
	午後	13:30~ 地域医療実習 オリエンテーション	救急	救急	救急	での実習/ 救急
第2週	午前	地域の診療所で の実習/ 救急	地域の診療所 での実習/ 救急	地域の診療所 での実習/ 救急	救急	救急
	午後					16:00-17:00 地域医療 実習振り返り

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医206			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	後学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502157002	体験学習	1	
担当教員[ローマ字表記]			
宮里 実, 屋良 さとみ			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

[療養型施設 訪問見学実習]

早期体験学習の一環として、県下の老人病院、老人保健施設や特別養護老人ホーム等の療養型診療施設、整肢養護施設等を見学させて頂き、急性期病院ではない施設のお患者さんやそのご家族、職員の方々と接することにより、療養型施設やその入院・入所患者さんの現状（寝たきり、車椅子使用の患者さんの多い現状）等を学び、今後多く関わっていく急性期病院では学べない日本の医療・社会の現状を医師になる前に知ることにより、予防医学への関心も高め、良医になるためのモチベーションを維持し、より高めていくことを目的とする。

[沖縄愛楽園 訪問見学実習]

全国に13施設ある国立ハンセン療養所（沖縄県内2施設）の一つであり、本島北部に在る「国立療養所沖縄愛楽園」にも訪問させて頂き、人権問題はじめ歴史的にも様々な深い問題のあったハンセン病に関し、身近な問題として医学生として理解を深め、将来の医師としての診療姿勢に役立てることを目標とする。また沖縄愛楽園が沖縄本島北部地域に存在することと地域医療との関わりに関しても学ぶ。学生が沖縄県の離島へき地医療の一実態を体験し、関心を高めるとともに地域医療の重要性を実感してもらう。長期的には、将来の地域医療を担う医療人の育成も目指す。

本科目（上記両実習）では、学生が実習により実務に触れることができる。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

[共通項目]

①医学・医療や福祉に関する一般的な内容を知ることができる。

[U.専門性] 『C II.医学知識』

②人間や社会の中で医療の果たす役割を説明できる。

[U.社会性] 『C I.プロフェッショナリズム・C V.地域医療への貢献』

③医師、病院スタッフ、患者さん等多くの方々と関わりの中で、社会人としての規律

を守り、プライバシーの尊重に配慮し、良好なコミュニケーションの構築に努めることができる。[U.社会性、コミュニケーションスキル] 『C I.プロフェッショナリズム・C IV.コミュニケーション能力』

④患者・地域住民の心理・社会的背景を正確に理解し、全人的医療実践の基本を身に付けることができる。[U.社会性、専門性] 『C I.プロフェッショナリズム・C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

⑤地域医療の中での役割を理解し、積極的な自己学習の基礎・動機付けとなる態度を身に付けることができる。[U.自律性] 『C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

医学の多面性を知り、医師としての生涯学習への準備とすることができる。

[U.自律性] 『C I.プロフェッショナリズム』

[療養型施設 訪問見学実習]

⑥療養型施設やその入院・入所患者さんの現状（寝たきり、車椅子使用の患者さんの多い現状）等を学ぶことができる。[U.社会性] 『C V.地域医療への貢献』

⑦療養型施設に関わる各種問題を解決する考え方を身に付けることができる。

[U.問題解決力] 『C IV.コミュニケーション能力・C V.地域医療への貢献』

[沖縄愛楽園 訪問見学実習]

⑧沖縄愛楽園やその入所患者さんの現状等を学ぶことができる。

[U.社会性] 『C V.地域医療への貢献』

⑨ハンセン病に関わる各種問題を解決する考え方を身に付けることができる。

[U.問題解決力] 『C II.医学知識・C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

⑩ハンセン病に関わる保健・福祉・医療の役割を把握し、相互の連帯に関しての理解を深めることができる。

[U.社会性、地域性] 『C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

■ 評価基準と評価方法

・実習への出席・参加 (50%) (達成目標 ①③⑦⑨)

・実習レポート (50%) (達成目標 ②④⑤⑥⑧⑩⑪)

※体験学習終了後、実習レポートをWebClassにて提出すること

■レポート様式：A4用紙1枚程度 (Word)

※WebClassの使用方法については、「情報基盤統括センター」HP内のマニュアルを参照。

成績不服申立期間は、成績発表後1週間とする。

■ 履修条件

特になし。

■ 授業計画

[療養型施設 訪問見学実習]

場所：県内の10数か所の施設

日時：2023年11月20日 (月)、21日 (火)、22日 (水) のうちの一日

※3日間のうち、各自に割り当てられた1日間のみ行う。

[沖縄愛楽園 訪問見学実習]

場所：国立療養所沖縄愛楽園

日時：2023年10月18日 (水)

■ 事前学習

・各施設や愛楽園についての個人調べ学習

■ 事後学習

実習レポート (達成目標 ②④⑤⑥⑧⑩⑪)

※体験学習終了後、実習レポートをWebClassにて提出すること。

■レポート様式：A4用紙1枚程度 (Word)

■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名	特になし。			ISBN	備考
	著者名					
	出版社	出版年		NCID		

■ 教科書全体備考

■ 参考書にかかわる情報

参考書	書名	特になし。			ISBN	備考
	著者名					
	出版社	出版年		NCID		

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

- 入学時に提示された各種ウイルス抗体価が「陽性」ではない場合、実習説明会までにワクチン接種をしておくこと。
- インフルエンザ流行期のため、実習前までにはワクチンを接種しておくこと。

■ ■ オフィスアワー

医学教育企画室 屋良さとみ

水曜日10～17時

E-mail : f040621@med.u-ryukyu.ac.jp

Tel : 098-895-1214

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医301			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	後学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502110002	離島地域病院実習	1	
担当教員[ローマ字表記]			
宮里 実, 屋良 さとみ			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

1. 実習期間

離島地域病院実習の期間中（2023年11月27日（月）～2024年2月2日（金））のうち、学年全体を下記の実習病院に班分けし、各班各々1週、約5日間、病院実習を行う。

2. 実習先病院

- 公立久米島病院（久米島町）
- 県立宮古病院（宮古島市）
- 県立八重山病院（石垣市）
- 県立北部病院（名護市）
- 北部地区医師会病院（名護市）

3. 実習方法

下記の目標のもと、上記5つの実習先病院のいずれかにおいて、2人～6人の班に分かれ、当該病院の実習カリキュラムに沿って病院実習を行う。実習前には「実習前演習」や、各実習の前には「班別事前・事後勉強会」も行い、より深く有意義な病院実習を行えるようにする。本科目では学生が実習により、沖縄県の地域医療の実務に触れることができる。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

1) 一般目標

- ①離島地域住民の疾病と生活環境との関わりを理解し[U.社会性]『C V.地域医療への貢献』、疾病に関わる問題を解決する考え方を身に付けることができる[U.問題解決力]『C II.医学知識』。
- ②離島地域医療の現場で必要とされる知識、情報収集、マネジメント法についての基礎を身に付けることができる[U.情報リテラシー、問題解決力]『C V.地域医療への貢献』。
- ③保健・福祉・医療の役割を把握し、相互の連帯について理解できる[U.社会性、地域性]『C V.地域医療への貢献』。
- ④離島地域住民の心理・社会的背景を正確に理解し、全人的医療実践の基本を身に付けることができる[U.社会性、専門性]『C V.地域医療への貢献』。
- ⑤離島地域医療の中での役割を理解し、積極的な自己学習の基礎・動機付けとなる態度を身に付けることができる[U.自律性]『C I.プロフェッションナリズム、C V.地域医療への貢献』。

2) 個別目標

- ⑥離島地域病院の地域完結型医療とプライマリ・ケアを中心とした診療の両方を体験し、離島地域中核病院と診療所・医院との密接な連帯について理解できる[U.地域性]『C V.地域医療への貢献』。
- ⑦インターネットを活用した診療支援システムを把握し、広域医療ネットワークでの離島地域医療の理解ができる[U.地域性]『C V.地域医療への貢献』。
- ⑧離島地域中核病院での診療・介護を通して、離島へき地医療における在宅医療・介護支援の重要性を理解できる[U.地域性]『C V.地域医療への貢献』。
- ⑨各病院実習において、医師、病院スタッフ、患者さん等多くの方々との関わりの中で、

社会人としての規律を守り、プライバシーの尊重に配慮し、良好なコミュニケーションの構築ができる [U.社会性、コミュニケーションスキル] 『C V.地域医療への貢献、C IV.コミュニケーション能力』。

評価基準と評価方法

[全てWeb-Classにて記載・提出]

- ・ブレアンケート (10%) (達成目標 ②)
- ・「M3 離島地域病院実習の記録」(様式あり)を日々記述。(30%) (達成目標 ①～⑥⑧⑨)
(出席の代用となるので、実習した全ての日程(時間まで)の記録をとる)
- ・「実習レポート」(A4用紙2枚程度: Word様式)以下の内容を含める。
(実習で学んだこと・自分で調べたこと・今後の自分への影響・感謝の気持ち)
(40%) (達成目標 ①④～⑧)
- ・ポストアンケート (20%) (達成目標 ④～⑥⑧)

成績不服申立期間は、成績発表後1週間とする。

履修条件

特になし。

授業計画

1. 実習期間

離島地域病院実習の期間中(2023年11月27日(月)～2024年2月2日(金))のうち、各病院、各班々1週 約5日間、病院実習を行う。(一人約1週5日間)

- 1班 2023年 11月27日(月)～12月1日(金)
- 2班 2023年 12月4日(月)～12月8日(金)
- 3班 2023年 12月11日(月)～12月15日(金)
- 4班 2023年 12月18日(月)～12月22日(金)
- 5班 2024年 1月15日(月)～1月19日(金)
- 6班 2024年 1月22日(月)～1月26日(金)
- 7班 2024年 1月29日(月)～2月2日(金)
(大学からの補助金あり。)

2. 説明会: 2023年 9月25日(月) 午後予定

3. 実習前演習: 2023年 11月13日(月) 13時～16時予定

事前学習

[Web-Classにて記載・提出]

- ・ブレアンケート(達成目標 ②)

事後学習

[Web-Classにて記載・提出]

- ・ポストアンケート(達成目標 ④～⑥⑧)

教科書にかかわる情報

教科書	書名	特に既定のものなし。			ISBN	備考
	著者名					
	出版社	出版年	NCID			

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書	書名	ISBN	備考

著者名	特に既定のものはない。			ISBN		NCID	
出版社		出版年		NCID			

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

- ・入学時に提示された各種ウイルス抗体価が「陽性」ではない場合、実習説明会までにワクチン接種をしておくこと。未完了の場合、実習に参加できないことがある。
- ・インフルエンザ流行期のため、実習前までにはワクチンを接種しておくこと。
(10月下旬頃、学内にて集団接種予定。医学科後援会からの補助あり。)
- ・準備物：白衣、聴診器等を用意すること。

オフィスアワー

医学教育企画室 屋良さとみ：
水曜日10～17時
E-mail : f040621@med.u-ryukyu.ac.jp
Tel : 098-895-1214

メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

URL

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
502107			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	前学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502105001	衛生学・公衆衛生学		
担当教員[ローマ字表記]			
中村 幸志 [Koshi Nakamura]			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

衛生学・公衆衛生学（以下、両者を包括して公衆衛生学と略）は社会医学や予防医学に位置づけられ、「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学・技術（1949年、CEA Winslow）」と定義される。Winslowが規定する公衆衛生の内容「環境保健、疾病予防、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度、社会保障」によれば、公衆衛生学は疾病予防・健康増進（すなわち保健）を中心としつつも、広義には医療や福祉にも及ぶ幅広い領域で構成されている。我が国の医師法第1条に「医師は医療および保健指導をつかさどることによって公衆衛生の向上および推進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されているように、公衆衛生学は全ての医師にとって必須の素養である。適切な公衆衛生施策の立案及び実施のための科学的な根拠を提供する調査研究の基礎理論が疫学であり、これは人を対象とする研究全般（臨床研究を含む）に通じるものである。

本科目では、公衆衛生学の基礎的な知識と考え方の習得に加え、歴史的変遷及びタイムリーな話題や沖縄県の問題を取り上げて公衆衛生学が生る学問であることの理解を深めるための公衆衛生学の総論及び各論の講義、また、公衆衛生推進に必須の手法や考え方である疫学の基礎的な知識と考え方を人対象研究全般（臨床研究を含む）にも通じるような形で習得することに加え、人対象研究から創出された根拠に基づく医療及び公衆衛生を理解するとともに、人対象研究への関心を醸成することも視野に入れた疫学の講義（演習を含む）を実施する。さらに、講義と並行しながら本科目授業の一定の時間を割いて、グループ（10数人、予め割り振る）として、公衆衛生に関する関心あるテーマについて自主的に学びを進めて成果を発表するとともに、他のグループの発表を聞いて知識や考え方を拡充するアクティブラーニング形式の演習（社会医学演習）を実施する。

資料はWebClassを通じて電子媒体で配布し、授業時に紙媒体（印刷物）を配布しない。配布資料を個人の学習の範囲を超えて使用することを禁止する。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

公衆衛生学・疫学の医学の中での位置づけ及び社会における役割について基礎的用語を適切に用いて説明できる。

一般人（生活者）の生活を踏まえた健康／不健康について、その集団や社会環境の観点も交えて、捉えることができる。

現在の公衆衛生の諸問題を論理的に述べることができる。

関心を持って、公衆衛生や疫学研究について主体的に学びを広げるための考え方や術を修得して実践できる。

総じていえば、最終的な目標は、先述の医師法第1条の医師の任務を全うするための公衆衛生学の素養の基礎を修得することである。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）における位置づけは、同学修目標「B社会と医学・医療」の中の「B-1集団に対する医療1～9）」に対応している。

1) 「統計の基礎」：①データの記述と要約（記述統計を含む）、②主要な確率分布、③正規分布の母平均の信頼区間の計算、④基本的な仮説検定の構造などについて説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

2) 「統計手法の適用」：①2群間の平均値の差の検定（群間の対応のあり、なしを含む）、②パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違い、③カイ二乗検定法、④一元配置分散分析の利用、⑤2変量の散布図の描記および回帰と相関の違いの説明、⑥線形重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析と交絡調整などを概説できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

3) 「根拠に基づいた医療」：①根拠に基づいた医療の5つのステップを列挙でき、②Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome を用いた問題の定式化、③研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス））の概説、④データベースや二次文献からの

エビデンス、診療ガイドラインの検索、⑤得られた情報の批判的吟味、⑥診療ガイドラインの種類と使用上の注意の列挙、⑦診療ガイドラインの推奨の強さについての違いなどを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

4) 「疫学と予防医学」：①人口統計(人口動態と人口動態)、疾病・障害の分類・統計(国際疾病分類:ICDなど)、②平均寿命および健康寿命、③罹患率と発生割合の違い、④疫学とその応用(疫学概念、疫学指標(リスク比、リスク差、オッズ比)とその比較(年齢調整率、標準化死亡率(standardized mortality ratio))、バイアス、交絡)、⑤予防医学(一次、二次、三次予防)と健康保持増進(健康管理概念・方法、健康診断・診査と事後指導)などを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

5) 「生活習慣とリスク」：①基本概念(国民健康づくり運動、生活習慣病とリスクファクター、健康寿命の延伸と生活の質(quality of life)向上、行動変容、健康づくり支援のための環境整備等)、②栄養・食育・食生活、③身体活動・運動、④休養・心の健康(睡眠の質、不眠、ストレス対策、過重労働対策、自殺の予防)、⑤喫煙(状況、有害性、受動喫煙防止、禁煙支援)、⑥飲酒(状況、有害性、アルコール依存症からの回復支援)、⑦ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善(環境レベル、知識レベル、行動レベルと行動変容)などを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

6) 「社会・環境と健康」：①健康(健康の定義)、障害と疾病の概念と社会環境(機能障害、活動制限、参加制約、生活の質、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等)、②社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係(健康の社会的決定要因(social determinant of health))、③仕事と健康、環境と適応、生体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全が健康と生活に与える影響、④各ライフステージの健康問題(母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健)、⑤スポーツ医学などを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』

7) 「地域医療・地域保健」：①地域社会(へき地・離島を含む)における医療の状況、医師の偏在(地域、診療科及び臨床・非臨床)の現状、②医療計画(医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等)及び地域医療構想、③地域包括ケアシステム概念、地域における、保健(母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健)・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間(行政を含む)の連携の必要性、④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性、⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制などを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』『CV.地域医療への貢献』

8) 「保健・医療・福祉・介護の制度」：①日本における社会保障制度と医療経済(国民医療費の収支と将来予測)、②医療保険、介護保険及び公費医療、③高齢者福祉と高齢者医療の特徴、④産業保健(労働基準法等の労働関連法規を含む)、⑤医療の質の確保(病院機能評価、国際標準化機構(International Organization for Standardization)、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス等)、⑥医師法、医療法等の医療関連法規、⑦医療関連法規に定められた医師の義務、⑧医療における費用対効果分析、⑨医療資源、医療サービス、診療報酬制度、⑩医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携、⑪感染症法・食品衛生法の概要と届出義務、⑫予防接種の意義と現状、⑬障害者福祉・精神保健医療福祉の現状と制度などを説明できる。[U.専門性]『CII.医学知識』『CV.地域医療への貢献』

9) 「国際保健」：世界の保健・医療問題、国際保健・医療協力を列挙、説明できる。[U.専門性][U.地域・国際性]『CII.医学知識』『CVI.国際性』

「社会医学演習」では、[U.自律性][U.社会性][U.コミュニケーションスキル][U.情報リテラシー][U.問題解決力]『CI.プロフェッションナリズム』『CIV.コミュニケーション能力』『CVII.科学的探究』

評価基準と評価方法

最終評価は、試験【付記1】75%、社会医学演習【付記2】25%(発表会15%、レポート10%)の割合で重みづけした100点満点にて、60点以上を合格(単位認定)とする。

成績不服申立期間は、成績発表後の1週間以内とする。

【付記1】一連の講義及び演習が終了した後に筆記試験を実施する。試験の受験資格は、本科目中の講義(WebClassに掲示する授業日程表の「時限」欄の数値に○あり)のうち3分の2以上の出席を有することとする。これを満たさない学生の受験を認めない。但し、社会医学演習(特に発表会)の出席については、別に定める。出題範囲は、講義及び演習にて取り上げた内容に限定せず、後述の教科書に準じる参考図書に包含される公衆衛生学全般とする。試験の形式は、医師国家試験に準拠した選択問題を中心に、記述問題も含めて構成する。

【付記2】社会医学演習は、発表抄録、発表会(グループ単位の発表及び質疑応答)、レポート(個人単位)を中心に評価する。発表会への出席及びレポートの提出を必須とする。発表会では、講座教員及び学生(当該グループを除く)全員が評価者となり、各グループの発表の「全体の内容構成」「考察/結論の質」「スライド及び発表の仕方」について評価する。個人レポートでは、「学んだ感想(自分の考え)」の記述を重視して評価する。チューターとの連携や発表会での良質な質問をはじめとする積極性、グループ内での協調性などを評価に若干加味することがある。社会医学演習の進め方の詳細はWebClassにて配布する社会医学演習実施要項で提示する。

履修条件

特になし。

授業計画

令和5(2023)年4月18日(火)から火・木曜日の4~6時限(12時50分~13時50分、14時00分~15時00分、15時10分~16時10分)に全60時間の講義及び演習形式で行う。場所は医学部臨床講義棟1階小講義室である。但し、社会医学演習発表会は令和5(2023)年6月13日(火)【1~6時限】に臨床講義棟2階大講義室に於いて、また、試験は令和5(2023)年7月6日(木)【午前】に臨床講義棟2階大講義室に於いて実施する。WebClassに日時や内容などの詳細を記した授業日程表を掲示して通知する。

内容構成は、公衆衛生学総論【2】、医療関連法規【1】、疫学総論【1】、疫学指標【1】、疫学研究デザイン【2】、疫学因果推論【1】、臨床疫学【1】、根拠に基づく医療【1】、医療統計【2】、母子保健【1】、成人保健【2】、高齢者保健福祉【2】、地域保健【2】、学校保健【1】、産業保健【2】、国際保健・グローバルヘルス【2】、感染症危機管理【1】、環境保健【2】、食品衛生【1】、精神保健福祉【2】、社会保障【1】、疫学演習【3】、社会医学演習【17】、社会医学演習発表会【6】、自主学習(緊急の日程変更に伴った予備時間を兼ねる)【3】である(〔 〕内の数値は時間数を表す)。

【注意】日程などの変更がありうる。WebClassまたはWebメールにて通知する本科目に関する最新情報の把握を怠らないようにしてほしい。また、メールサーバーの容量超過によるメールの受信不良がないように注意してほしい。

事前学習

講義には、事前に配布する資料を一読して臨むことが望ましい。

社会医学演習は、授業の中で確保した時間にグループの打ち合わせができるように、メンバーで役割を分担して、協調性をもって能動的かつ計画的に進める。

事後学習

特に授業にて強調した事項や関心を持った事項について、定着させるとともに、関連する書籍・文献を使って学びを広げることが望ましい。社会医学演習は、事前学習に準じる。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	特になし。			ISBN	備考
	著者名					
	出版社	出版年	NCID			

教科書全体備考

特になし。

参考書にかかわる情報

参考書	書名	シンプル衛生公衆衛生学2023			ISBN	備考
	著者名	小山洋(監修), 辻一郎, 上島通浩(編集)				
	出版社	出版年	NCID			
参考書	書名	NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版			ISBN	備考
	著者名	岸玲子(監修), 小泉昭夫, 馬場園明, 今中雄一, 武林亨(編集)				
	出版社	出版年	NCID			
参考書	書名	基礎から学ぶ 楽しい疫学 第4版			ISBN	備考
	著者名	中村好一(著)				
	出版社	出版年	NCID			
参考書	書名	はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版			ISBN	備考
	著者名	日本疫学会(監修)				
	出版社	出版年	NCID			

参考書全体備考

公衆衛生学に関する書籍（疫学の初級の内容を含む）は、教科書に指定しないが、大いに学修の参考にすべきものである。

疫学に関する書籍は、もう少し深く学びたい場合の初級～中級（大学院医学研究科博士課程にて疫学研究または臨床研究を始める際の基礎として修得すべきレベル）のものである。

使用言語

日本語

メッセージ

オフィスアワー

火・水・木曜日 16時30分～18時30分 衛生学・公衆衛生学講座

上記オフィスアワーはあくまで目安であり、双方の都合が合えば随時に面会希望に対応したい。

したがって、できるだけ事前に面会の予約をお願いしたい。

衛生学・公衆衛生学講座メールアドレス: epm@w3.u-ryukyu.ac.jp

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
医103			抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2023	前学期	未定	医学部医学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
502066001	救急車同乗実習	1	
担当教員[ローマ字表記]			
梅村 武寛 [Takehiro Umemura]			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

- (1) 各消防本部が行っている救急業務の実態を見学する。
- (2) 救急患者受け入れ医療機関の現状を見学する。
- (3) 琉球大学医学部と各消防本部との連携を深める。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

各消防本部が行っている救急業務の実態を見学し、救急患者受け入れ医療機関の現状を把握することで、理解を深め関心を深めてもらう。今後主体的に思考し、行動できるようになる。

評価基準と評価方法

- (1) 救急隊員の指示に従い、救急活動を体験する。
- (2) レポートを消防署救急隊と担当教員に提出する。

履修条件

特になし

授業計画

場 所：那覇市消防局、宜野湾市消防本部、浦添市消防本部、糸満市消防本部、沖縄市消防本部、豊見城消防本部、うるま市消防本部、島尻消防組合消防本部、東部消防組合消防本部、中城北中城消防本部、ニライ消防本部の計 1 1 消防本部管轄の消防署等

時 間：土日それぞれ 8：30～17：00 うち計 16 時間

人 数：各消防署等 1 回につき 1 名ずつ

事前学習

学習項目参照し、自主的に考える。

■ ■ 事後学習

レポートを作成し、webclassにて提出

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

月～土曜日、朝カンファレンス終了後（9:00過ぎ頃）から11:00、救急部カンファレンス室

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

地域医療臨床実習評価

学生氏名： _____

実習日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

実習施設： _____

評価者： _____

A) 実習した学生についてお聞きします。 あてはまるところに○をつけてください。

<評価基準>

3	2	1	NA
学生とは思えない程 優れている	学生として 十分なレベル	今後更なる 努力が必要	十分な情報がなく 評価できない

- | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|----|
| 1. 患者や家族に不安感や不快感を与えないように配慮している …………… | 3 | 2 | 1 | NA |
| 2. 周囲のスタッフと良好なコミュニケーションがとれている …………… | 3 | 2 | 1 | NA |
| 3. 積極的に実習に臨んでいる …………… | 3 | 2 | 1 | NA |

B) **総合評価**

- 学生とは思えない程
優れている 学生として
十分なレベル 今後更なる
努力が必要 あまりに不十分で
実習したと認められない

C) その他のコメント (気付いた点があれば記入してください)

Large empty rounded rectangular box for additional comments.

地域医療臨床実習自己評価票

学年：__年生 学籍番号：_____ 氏名：_____

実習期間：__年__月__日～__年__月__日(記載日：__年__月__日)

実習施設・内容：_____

A) 以下の項目についてどれ位自信を持って行えるようになりましたか？

あてはまるところに○をつけて下さい。

	できる	ほぼ できる	できるが 不十分	全く できない
1. 病歴・身体診察を重視した診断推論を組み立てることができる……	4	3	2	1
2. 患者や家族に不安感や不快感を与えないように配慮する……	4	3	2	1
3. 医療の社会的側面(医療保険、公費負担医療、介護保険、社会福祉……施設、在宅医療および介護)の重要性を述べる……	4	3	2	1
4. 多職種連携の重要性を述べる……	4	3	2	1
5. 地域保健および健康増進の重要性を述べる……	4	3	2	1

B) この実習で特にどのようなことを学び、経験しましたか？

C) この実習を始めるときに立てた実習目標(学びたいこと、経験したいこと)に到達できましたか？
あてはまるものに○をつけて下さい。

十分以上かなり 到達できた	半分くらい 到達できた	到達できた	あまり 到達できなかった	全く 到達できなかった
5	4	3	2	1

到達できた／できなかった理由：

()

地域医療臨床実習（ポスト・アンケート）

学年：_____ 名前：_____ （ 1. 男性 2. 女性 ）

（記載日： _____ 年 _____ 月 _____ 日）

A. 以下の設問について、当てはまるものに○をつけて下さい。

（1）地域医療について興味がありますか？ 該当するものに○をつけて下さい。

1. 興味がある 2. どちらかというに興味がある 3. どちらかというに興味がない 4. 興味がない

（2）卒後の進路を問わず、全ての医学生が地域医療実習を受ける必要があると思いますか？

非常に必要	どちらかと いえば必要	どちらかと いえば必要ない	全く必要ない
4	3	2	1

（3）地域医療臨床実習について、気付いた点や感想（よかった点・改善すべき点）を記入して下さい。

■ ■ 科目番号	■ ■ 教室		■ ■ 登録人数	■ ■ 履修登録方法
502064				抽選対象
■ ■ 開講年度	■ ■ 期間	■ ■ 曜日時限	■ ■ 開講学部等	
2023	前学期	未定	医学部医学科	
■ ■ 講義コード	■ ■ 科目名[英文名]		■ ■ 単位数	
502064001	臨床実習			
■ ■ 担当教員[ローマ字表記]				
大野 真治				

■ ■ 授業の形態

講義、演習又は実験、実習

■ ■ アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

■ ■ 授業内容と方法

- ・臨床実習では4年生の11月から6年生の7月にわたり、診療チームの一員として行動します。
- ・臨床実習には、実習前半の必修ローテーション（ポリクリ）と、実習後半の選択ローテーション（クリクラ）の二つがあります。
- ・臨床実習では診療チームの一員として診療業務を分担しつつ、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度を学びます。
- ・実習内容は診療科ごとに異なるので、臨床実習履修簿や各科のオリエンテーションでしっかり把握してください。

■ ■ URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

■ ■ 達成目標

- ・ここでは一般的な達成目標を掲げます。（各科ごとにも達成目標があるので、詳細は臨床実習履修簿などで確認してください）
- ・医師としての責任感と態度を身につけ、行動できる。
- ・医療チームの一員として、多職種や患者と円滑なコミュニケーションができる。
- ・医療面接、身体診察、基本的な臨床手技、診療録の作成を身につけ、実践できる。
- ・医療面接・身体診察・検査結果をもとに鑑別診断を挙げ、治療法を計画できる。
- ・患者の病態やおかれている状況を、基礎医学・臨床医学・社会医学・社会福祉の観点から横断的に分析し、問題の解決に向けて提案ができる。
- ・医療チームの一員として行動する中で、医師としての自らの将来像を形成できる。

■ ■ 評価基準と評価方法

- ・実習の1/5以上を欠席した学生は当該診療科の実習は不合格となります。その場合は、追実習が可能かどうか診療科と相談してください。
- ・各診療科ごとに10項目（基本的な医学知識、病歴聴取、身体診察、問題解決能力（臨床推論）、カルテ記載、症例プレゼンテーション、患者とのコミュニケーション、医療スタッフとのコミュニケーション、医療人としてのふさわしい振る舞い、その他）を5段階評価します。これらを踏まえて、総合的に5段階評価します。最低評価の場合には、その診療科の実習は不合格となります。

■ ■ 履修条件

- ・共用試験（CBT、およびOSCE）に合格していることが必須です。

■ ■ 授業計画

- ・実習内容は各診療科により異なります。臨床実習履修簿や各科オリエンテーションなどできちんと把握しておいてください。

■ ■ 事前学習

- ・各科により異なります。臨床実習履修簿を参考にしてください。
- ・診療科で担当する可能性のある疾患について一通り復習しておくことを推奨します。

■ ■ 事後学習

- ・診療科によってはプレゼンテーション・レポートが課せられます。臨床実習履修簿で確認するか、実習中に担当教員に確認してください。
- ・自身の担当した症例だけでなく、グループメンバーと情報交換を行うことで、幅広く多くの症例と接するように心がけてください。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

- ・実習にあたっての詳細な注意事項は臨床実習履修簿を参考にしてください。以下に一般的な注意事項を挙げていますので留意してください。
- ・欠席・遅刻の場合には必ず診療科の担当者へ連絡すること。
- ・清潔な身だしなみを心がけ、ネームプレートをきちんと着用すること。
- ・患者さん、他職種の方々には礼節を保った態度と言葉づかいで接すること。
- ・患者さんと接する時には実習への協力を感謝するとともに、プライバシーや個人情報の保護に留意すること
- ・患者さんに、独断で予後や治療法に関する情報を伝えないこと。
- ・守秘義務や個人情報の管理を常に意識すること。
- ・電子カルテのパスワードを適切に管理すること。

皆さんの臨床実習が実りあるものとなることを願っています。

■ ■ オフィスアワー

臨床実習履修簿を参考にしてください。

■ ■ メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ ■ URL

保 医 第 4 1 9 号
令 和 5 年 8 月 1 8 日

厚生労働省医政局長 殿

沖縄県保健医療部長

糸数 公



地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和5年8月8日付け5文科高第669号、医政発0807第12号に基づき、下記のとおり、令和6年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

12名

- ・琉球大学医学部における地域枠：12名

担 当：沖縄県保健医療部医療政策課
北部医療センター・医師確保推進室 諸見里
電話番号：098-866-2111
メールアドレス：moromist@pref.okinawa.lg.jp

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学部医学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	基礎 教育 科目	外来患者付添い実習	1・1~2学期	1					○	1	1				
		シミュレーション演習	1前	2					○	1	1				
		医学概論B	1前	1				○		1	1				
		医学外国語	2・1学期	1				○		13	9	1			
		体験学習	2・2学期	1					○	1	1				
		離島地域病院実習	3・2~3学期	1						1	1				
		東洋医学概説	4・2~3学期	1				○		1					
		救急車同乗実習	4前	1					○	1					
		小計（8科目）	—	8					—	19	14	1	0		
		コ ー ス 科		基礎医学演習	1後	2				○	1				
プライマリ・ケア演習 I	1後			2				○	1						
小計（8科目）	—			16				—	25	16	1	0			
専 門 許 育 科 目		分子細胞生物学	1前	(144)				○		1					
		人体の構造と機能	1通	(79)				○		1					
		解剖学実習・骨学実習	1通	(99)				○		1					
		組織学実習	1通	(51)				○		1					
		医療情報学 I	1後	(5)				○		1					
		微生物・免疫学	2・1~2学期	(117)				○		1					
		遺伝医学	2・1学期	(18)				○		1					
		発生再生医学	2・1学期	(18)				○		1					
		病理学 I	2・1~2学期	(44)				○		1					
		病理学 II	2・1~2学期	(44)				○		1	1				
		症候とその評価法	2・2~3学期	(14)				○			1	1			
		呼吸器・胸壁・縦隔系	2・2~3学期	(21)				○			1				
		腎・泌尿器系	2・2~3学期	(25)				○			1				
		循環器系	2・2~3学期	(34)				○			1				
		精神医学系	2・2~3学期	(20)				○			1				
		神経医学系	2・2~3学期	(20)				○			1	1			
		感染症系	2・2学期	(18)				○			1				
		代謝学系	2・2~3学期	(15)				○			1				
		臨床薬理学	2・3学期	(11)				○			1	1			
		地域医療/プライマリ・ケア	2・3学期	(9)				○	○		1	1			
		神経科学	2・1学期	(53)				○		○	1				
		薬理学	2・1~2学期	(99)				○		○	1				
		医療情報学 II	2・3学期	(7)				○			1				
		医科学研究	3・2~3学期	(385)						○	40	2	1		
		治療学系	3・2学期	(13)				○				1			
		消化器系	3・1学期	(26)				○			1				
		麻酔医学系	3・1学期	(24)				○			1				
		女性生殖器系	3・1学期	(34)				○			1			1	
		歯・顎・口腔系	3・1学期	(12)				○			1			1	
		運動器系	3・1学期	(25)				○			1				
		内分泌系	3・1学期	(23)				○			1				
		皮膚結合組織系	3・1学期	(24)				○			1				
膠原病・リウマチ病学	3・2学期	(16)				○			1						
血液学系	3・2学期	(15)				○			1						
感覚器系（耳）	3・2学期	(25)				○			1						
感覚器系（眼）	3・1~2学期	(14)				○			1						

沖縄特色科目	3・1学期	(12)			○			1				
救急医療系	3・2学期	(16)			○			1				
小児医学系	3・1学期	(28)			○			1	1			
放射線医学系	3・2学期	(15)			○			1				
BPE	4・2学期	(80)				○		1	1			
TBLチュートリアル	4・1学期	(90)				○		1	1			
衛生学・公衆衛生学	4・1学期	(42)			○		○	1				
法医学・医事法制	4・1学期	(28)			○		○	1		5		
病理総合学習	4・1学期	(22)					○	1				
医療学総論（特別演習）	4・2学期	(25)				○		1		1		
総合講義	5・3学期	(20)			○			1		1		
臨床実習	4～6通	(2880)					○	1		1		
小計（48科目）	—	(4832)						85	11	10	2	
合計（56科目）	—											
学位又は称号	学士(医学)	学位又は学科の分野	医学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等				
本学に6年以上在学し、共通教育科目を22単位、専門基礎教育科目を3単位、基盤教育科目を9単位修得並びに専門教育科目を4,832時間履修し、かつ、総合試験及び臨床実習後OSCEに合格しなければならない。								1 学年の学期区分		3 期		
								1 学期の授業期間		1 5、1 0、5 週		
								1 時限の授業時間		6 0 分		

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。